

# 東京帝国大学における中国人留学生データの解析

— 昭和初期（1927-1937年）の入学者を中心に —

周 一 川

## 要旨

1927-1937年に東京帝国大学に入学した中国人留学生数は、少なくとも478名であり、それは帝国大学の中で最多であった。東京帝大は学部ごとの独自性が強く、留学生の取扱い基準なども学部により異なっていたが、すべての学部が中国の大学卒の留学生を受け入れる点では共通していた。

1930年代半ばの第三次日本留学（留日）ブームの時期には、東京帝大に中国人の入学希望者が殺到した。この状況の中で東京帝大は、大学院生と専攻生を中心に積極的に留学生を受け入れた。大学院生と専攻生の数が圧倒的に多かったのが、昭和初期の東京帝大留学生の特徴である。

中国人の帝大留学は、中国国内の高等教育の発展と非常に密接な関係があり、お互いに影響し合っていた。中国の高等教育の発展と普及は、帝国大学で学ぶことを希望する留学生に必要な学力を築いた。他方、数多くの中国人の入学希望者の存在により、東京帝大において学部ごとの留学生受け入れ方針や入学制度などの改革が促進された側面もあった。中でも、東京帝大大学院の門戸開放と医学部にあった専攻生制度は、高学歴な中国知識人に対してさらなる学びと研究を深めるチャンスを提供したといえる。

キーワード：東京帝国大学；中国人留学生；「外国学生」；大学院の門戸開放；専攻生

## はじめに

東京帝国大学（以下東京帝大）の留学生についての調査研究は、大学史の編纂から始まり、『東京大学百年史 通史二』（1985年）には留学生に関する記述がある。また、東京帝大留学生に関する所澤潤の資料紹介や研究論文<sup>1)</sup>が数編ある。陳昊の博士論文『近代日本における中国人留学生受け入れに関する研究：明治専門学校、東京・九州帝国大学の事例に即して』<sup>2)</sup>では、東京帝大の中国人留学生受け入れ方針や大学院、特に農学部の「特別講習会」の実態について詳細に論じられている。近年は、東京帝大の一学部に焦点をあてる研究が見られる。朱虹の「東京帝国大学医学部における近代中国人留学生への一考察 — 1922-1944年を中心に —」<sup>3)</sup>と三村達也の「対支文化事業」における「特別講習会」 — 東京帝国大学農学部の事例を中心に —」<sup>4)</sup>である。ほかには、大里浩秋の「東京帝国大学の中国人留学生関係文書を読む」<sup>5)</sup>がある。

以上の研究で東京帝大の留学生について部分的には明らかになったのだが、それらの研究では、全体像をとらえることができなかった。東京帝大にどのぐらいの中国人留学生がいたのか、かれらは、どのような経緯で入学し、何を学んでいたのか、という疑問をずっと解決できなかったのである。そこで本稿では、1927-1937年の間に東京帝大に入学した中国人留学生を対象として、人数、専攻、身分類別、出身校などを分析し、その全体像及び特徴の解明を試みることにした。

本稿で作成した資料「東京帝国大学中国人留学生名簿 — 昭2-12（1927-1937）年の入学者 —」（以下「名簿」）は、主に日華学会が編纂した1927-1944年『留日中華学生名簿』<sup>6)</sup>（以下日華学会『名

簿』)を使用して作成した。日華学会『名簿』に記録のない卒業年度や、一部しか記録されていない入学情報などについては、『東京帝国大学一覧』(時期によっては『東京帝国大学要覧』、以下『一覧』)などから資料の「名簿」に追加した。「名簿」は、収録範囲の広い日華学会『名簿』の統計を基にし、『一覧』との照合も行った。元資料の年度による収録範囲の違いや統計時期の制限及び統計の誤りなどにより、すべての留学生を収録することは不可能であるが、できるだけ精度を上げるよう努めた。

本稿は、拙論「京都帝国大学における中国人留学生データの解析——昭和初期(1927-1937年)の入学者を中心に——」<sup>7)</sup>の姉妹編であり、今後、両帝大の留学生政策や実態の違いを比較検討することも視野に入れて究明していきたい。

本稿では元号を西暦とし、旧字は新字とした。また、本稿のグラフはすべて巻末の資料「名簿」から作成したものである。

## 一. データから見る中国人留学生の概況

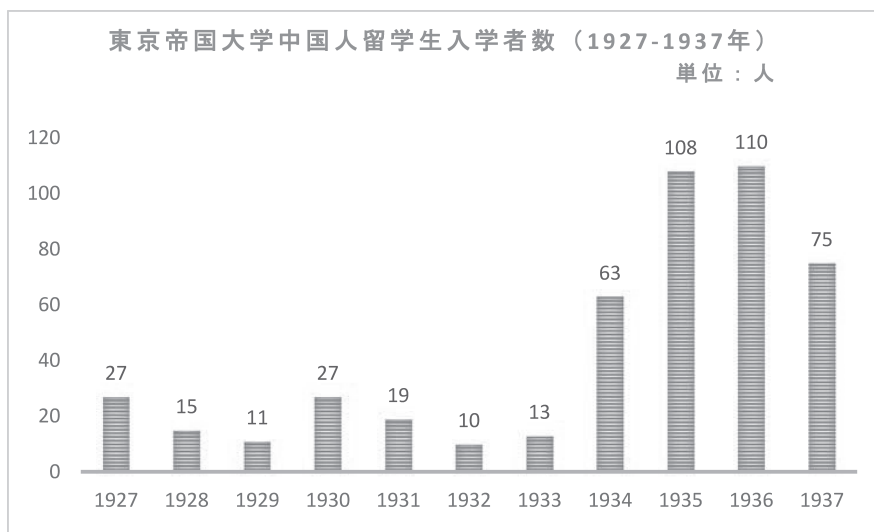
『東京大学百年史 通史二』(以下『百年史』)の留学生に関する統計<sup>8)</sup>は、1900(明治33)年から始まっている。「明治三十三年以前については、評議会の記録からインド人の選科入学(明治三十一年三月二十二日)と中国人の聴講生入学(同三十二年九月十九日)が認められる」<sup>9)</sup>と記述されているが、『一覧』の「学生及生徒姓名」には聴講生が収録されていないため、中国人聴講生の在籍を確認することはできない。『一覧』の「学生及生徒姓名」を調べると、1900年以前は、少なくとも15名の留学生(内中国人9名)が東京帝大で学んでいたことがわかった。この時期については、別稿「明治大正期における東京帝国大学の中国人留学生」(暫定)という論文で詳述することとして、ここでは、昭和初期における東京帝大の中国人留学生人数の推移とその背景に焦点を絞って論じたい。

### 1. 昭和初期(1927-1937年)の中国人留学生人数の推移

資料「名簿」の作成により、昭和初期に東京帝大で学んだ中国人留学生数は、合計478名であったことがわかった。年度別入学者数はグラフ1のとおりである。

グラフ1からわかるように、東京帝大の中国人留学生は1934年から急増し、1935・1936年の入学者

グラフ1



はそれぞれ 100 人を超えた。東京帝大留学生数の推移は、中国人の第三次留日ブームの時期（1934 年後半から 1937 年夏まで）の留学生が急増した傾向<sup>(10)</sup>と類似している。帝国大学の入学希望者が急増した背景には、この時期に数多くの高学歴な若者が日本にやってきたことがある。

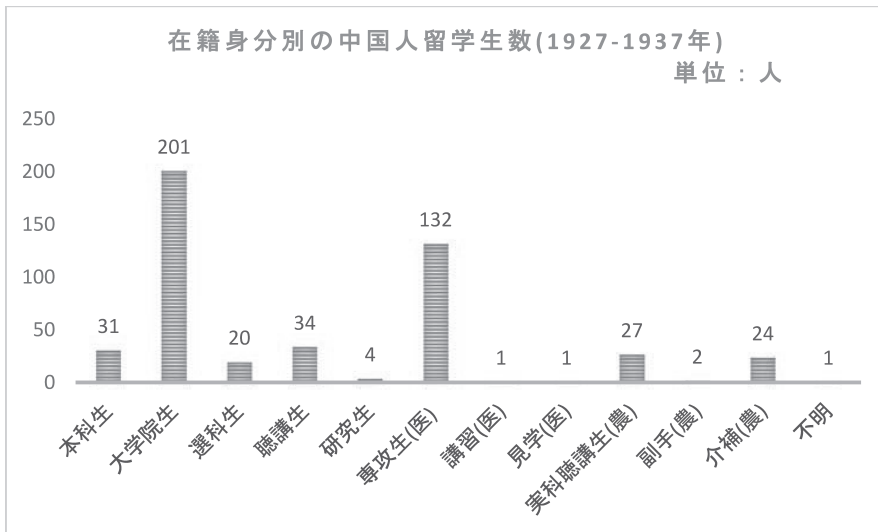
周知のように、日本のエリートを育成する帝国大学の入学条件は厳しく、本科生に進学できるのは、基本的に一高～八高など旧制高等学校出身者で、日本で教育を受けた者であった。入学競争が最も激しい東京帝大は特に厳しかった。その状況からすると、留日ブーム中に来日した中国人学生の急増と帝国大学留学生本科生の増加とは直接の影響はないと考えられる。しかし、帝国大学には本科生以外に大学院生、専攻生、選科生、聴講生などとして入学する道があった。

## 2. 身分類別

東京帝大の中国人留学生たちが、どのような身分で在籍していたのかは、下記のグラフ 2 で一目瞭然である。

### (1) 在籍身分別の留学生人数

グラフ 2



ここからわかるのは、東京帝大中国人留学生の構成は、本科生が少なく、大学院生と専攻生が多かったことである。これは、東京帝大の中国人留学生の特徴といえる。法、医、工、文、農、経済 6 学部の大学院生と医学部の専攻生の入学時期は 1930 年代の半ばに集中していた。

農学部は、他学部と異なり在籍身分の種類が多く、8 種類あった。日華学会『名簿』には合計 27 名の実科聴講生が収録されているが、1935 年については記録がなかった。それは、同年に東京帝大農学部実科が独立し、東京高等農林学校となったからである。1935 年度に入学した一人であった葉篤荘は、回想録<sup>(11)</sup>で農学部実科に入学する前後の留学生活について詳しく述べているので、転換期の実科の留学生の様子を窺うことができる。

### (2) 農学部の実科聴講生 — 葉篤荘の事例 —

「農学部実科規則」<sup>(12)</sup>によると、実科には農学、林学、獣医学の三つの専攻があり、授業料は年 80

円、修業期間は3年間であった。

実科の留学生は全員聴講生であり、『一覽』に名前は掲載されていない。実科聴講生は一般的な聴講生（学期又は学年単位の生徒）とは異なる扱いで、日華学会『名簿』に「1年級」～「3年級」などの記録があり、日本人と同じように修業期間は3年間であった。葉の回想でわかるように、実科の留学生たちは、日本人と全く同じ科目を学び、実習をおこない、下宿も制服も同じであった。恐らく日本人と区別するために中国人留学生は農学部実科聴講生とされたのであろう。

日華学会『名簿』の記録によると、彼ら（27名）の専攻は農学が多く、林業（6名）と獣医（5名）を学んだ者もあり、獣医専攻の留学生はすべて中国東北地方（後「満洲国」）の出身者であった。1935年に農学部実科は独立して、東京高等農林学校となった。それゆえ、葉篤莊を含め、1935年に入学した農学部実科の1年生と卒業していない上級生は、同年の日華学会『名簿』には記録されず、1936年の『名簿』に東京高等農林学校の留学生として掲載されている。以下に、実科留学生の例として葉篤莊の回想録から当時の状況を見ていく。

葉篤莊（1914-2000）は中国農業社会学院研究員、農業史学家として知られる。1934年に来日した後、すぐに東亜高等予備校で日本語を学んだ。当初小石川の白山寄宿舍に入居したが、中国人ばかりで、日本語を話す機会が少なかった。そのため、より日本語を学ぶため2カ月後に鶴巻の下宿に引越しをした。東京帝大の実科の入学試験は難しかったが、自分の小論文の内容がよくできたので、入学できたと語っている。受験前に過去の入試の小論文題目について先輩留学生に聞いたところ、テーマは「故郷」で、ここ数年は同じものだとわかっていた。そこで、自身で小論文を書き、松本亀次郎先生に直してもらい（殆ど先生の文章となった）、その内容をしっかり暗記して試験に臨んだ。入試の小論文題目は実際に「故郷」であったため、暗記した内容を一気に書き終えた。葉自身は南開中学校で学んだ基礎があるので、数学、生物、英語などの成績は悪くなかったが、小論文がよくできたことが実科に合格した鍵であったと回想している。

東京帝大農学部実科に合格した後、葉は農学部学生の多くが下宿する渋谷区の前田邸に移った。下宿代は18円（おそらく月額）で、二食付きであった。お昼は大学の食堂で食べ、一人分は0.15円であった。ご飯の量は約100グラムだけで足りなく、いつも二人前を食べていたという。

農学部実科の授業は、午前中に教室での座学、月、水、金の午後は実験室で行われ、火、木、土に農場実習があり、毎日忙しかった。実科は、東京帝大の専門学校のような位置づけであったが、教授は全員本科の教授であり、土壤肥料科目の担当は、著名な麻生慶次郎（1875-1953）教授であった。

1935年秋に実科は独立して東京高等農林学校となり、場所は渋谷から国分寺へ移転した。葉は学校の寄宿舍に1学期住んだが、三人部屋で、他の二人は日本人学生であった。食事はすべて日本の料理で、慣れなかった。その後、学校の寄宿舍から下宿に引越した。

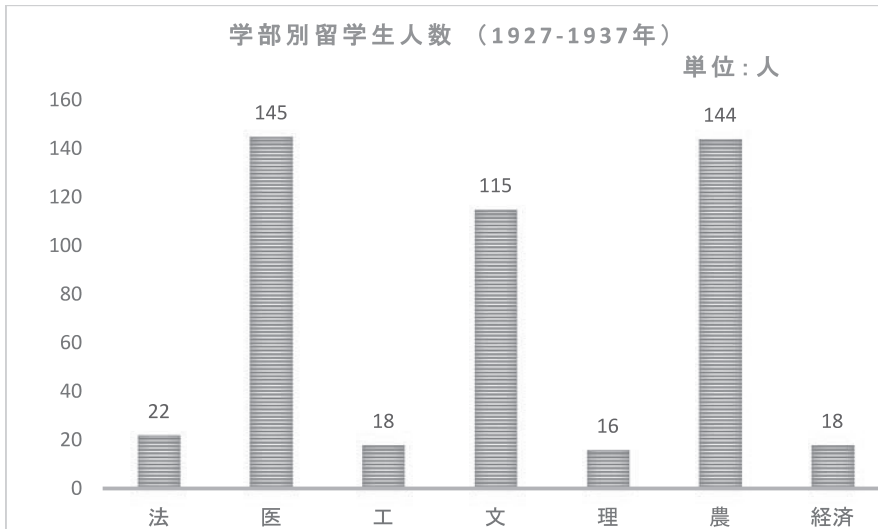
葉は、学校以外に社会活動にも積極的に参加しており、左翼組織の「文科座談会」と「中華留日劇人協会」のメンバーであった。

1935年東京帝大の実科に入学した葉篤莊は、半年後に東京高等農林学校の学生となり、日華学会『名簿』の東京高等農林学校留学生リストに「○葉篤莊 23（歳） 安徽 農学二年 南京金陵大学」<sup>(13)</sup>と記録されている。「葉篤莊先生大事年表」<sup>(14)</sup>によると、1933年に南開中学校を卒業し、南京金陵大学（1933-1934年）に短い期間在籍していた。○印は、日華学会『名簿』で在籍はしているが、実際は帰国しているなど不在校生を意味し、1936年6月（当年度日華学会『名簿』統計時期）時点で葉が学校にいなかったことがわかる。葉の回想録でも1936年前半に実家の分家と「天津知識書店」を作ることで半年帰国したことに言及している。その後復学し、1937年の夏に試験を終えて、帰国したとのことである。

### 3. 学部別人数

グラフ3は東京帝大の学部別留学生数（1927-1937年）である。ここから留学生は理系の医学部と農学部、そして文学部に集中していたことがわかる。

グラフ3



東京帝大の留学生は、文系の留学生数が多かった京都帝大と異なり、理系の人数がはるかに多かった。理系4学部の合計が323人であるのに対して、文系3学部は155名であり、理系の半数以下であった。

東京帝大は学部ごとに独自性が強く、留学生受け入れの基準なども異なること（本稿の第二章と第三章を参照）が珍しくない。さまざまな原因により、留学生人数が多かった医、文、農学部と対照的に工、理、経済学部の留学生は、かなり少なかった。後者の3学部の学生の在籍身分構成には共通の特徴があったが、それは聴講生が多かったことである。

東京帝大の聴講生制度は、明治期から存在しており、「学部通則」に組み込まれたのは1920年ごろ<sup>(15)</sup>であった。しかし、各年版『一覽』の「学生生徒姓名」には、聴講生が記録されていないため、明治大正期の聴講生の人数などについては不明の部分が多い。日華学会『名簿』には聴講生も含まれていたため、昭和期の情報は大体把握することができた。グラフ2からわかるように昭和初期の聴講生の人数（特殊な実科聴講生を除く）は合計34名であった。その半数以上は、留学生数が少ない工、理、経済学部に集中していた。工学部は留学生総数18名中8名が、理学部は16名中7名、経済学部は18名中9名が聴講生であった。特に工学部は、1935年まで中国の大学卒業者を一人も受け入れていなかったが、1936-1937年の2年間に聴講生として北平大学などから8名の留学生を受け入れた。

1930年代半ばの中国人第三次留日ブーム期間中に、数多くの中国の大学卒入学希望者が殺到した中で、東京帝大のすべての学部は、さまざまな枠組みで中国大学出身の留学生を受け入れた。

## 二. 1935 年の「学部通則」改訂 — 「外国学生」規定の追加 —

### 1. 背景

#### (1) 1934 年 12 月の第 11 号文部省令

1907 年「五校特約」の実施により、中国人留学生に帝国大学進学への道が開かれ、数多くの日本の高校（殆どが一高～八高）卒の留学生は帝国大学で学ぶようになった。しかし、1922 年の「五校特約」終了により、帝国大学の入学資格をもつ留学生は激減し、帝国大学留学生の入学希望者は著しく減少した。

この現状を変えるために、外務省主導の下に各関係機関が協議した結果、一高の特設予科が改編され、1932 年に三年制の「特設高等科」が誕生した<sup>(16)</sup>。その特設高等科の留学生が卒業を迎える前、1934 年 12 月の文部省令第 11 号により「第一高等学校特設高等科卒業者ハ高等学校高等科卒業者ト看做ス」<sup>(17)</sup>ことが決定し、文部次官より各大学学長宛に通達された。各大学の通達への対応は大いに異なり、東京帝大については学部によって意見もさまざまであった。

#### (2) 東京帝大各学部の一高特設高等科卒業生の対応

東大の一高特設高等科卒業生への取り扱いについて、陳昊と韓立冬は、各学部の関連資料と『帝国大学新聞』の記事に基づいて論じている<sup>(18)</sup>。1935 年 1 月 28 日の「第一高等学校特設高等科卒業者ノ大学入学ニ関スル取扱方ノ件」<sup>(19)</sup>によると、その主な内容は、以下の通りである。

表 1 東京帝国大学各学部の一高特設高等科卒業生の入学に関する取扱方針

法学部	一. 高等学校高等科卒業者ト同様選抜試験ヲ行ヒ入学ノ拒否ヲ決ス 二. 右ハ定員外トシテ取扱フ
医学部	一. 高等学校高等科卒業者ト同様選抜試験ヲ行ヒ学力相当ノモノハ其都度人員ヲ定メ入学ニ付考慮ス 二. 右ハ定員外トシテ取扱フ
工学部	入学ヲ許可シ難シ理由次ノ如シ 一. 現在ニ於テハ実験、製図其他ノ諸設備上定員外ニ収容ノ余地ナシ 二. 高等学校高等科卒業者ト同等ニ選抜試験ヲ行ヒ定員内ニ収容スベキヤ否ヤニ関シテハ猶考慮ノ必要アルヲ以テ保留ス
文学部	高等学校高等科卒業者ト同様ニ取扱フ
理学部	一. 場合ニ依リ学力考査ノ上入学ヲ許可スルコトアルベキモ収容定員数少数ナルニ依リ定員内ニ入学セシムルコトハ設備ノ関係上困難ナリ 二. 定員外ニ入学セシムル場合ニ於テハ実験費ノ徴収ヲ要スベシ
農学部	高等学校高等科卒業者ト同様選抜試験ヲ行ヒ右選抜ニ洩レタル者及高等学校高等科卒業者タル満支人ノ内優秀ナル者十名以内ヲ限り入学ヲ許可スルコトアルベシ 但シ経費ハ必要ニ応シ要求スルモノトス
経済学部	一. 高等学校高等科卒業者ト同等ニ取扱ヒ同文科卒業者ト同一ノ試験ヲ行フ 二. 右試験合格者ハ定員外トシテ入学ヲ許可ス

表 1 からわかるように、工学部以外の 6 学部は一高特設高等科卒の試験合格者を高等学校高等科卒業者と同様に取り扱うが、「定員外」として入学を許可するという条件付きの学部（文学部と農学部以外）が多かった。

多くの学部の方針が定員外という条件付きとなった要因は、下記の工学部が拒否する理由から窺え

る。「今回特設高等科生を収容しないのは一般高校生と異なつた特別な教育を受けたものを全国でも最も競争の激しい本学部が他の高校出を排して特に収容するというのは不公平を欠くと信じたからである。……」<sup>(20)</sup>。

文学部と農学部の対応は、他の学部との温度差がある。文学部が明確に「定員外」と示していないことは、定員数に対する入学希望者数の比率が関係すると思われる。

表2 1935年の東京帝国大学入学志願者数（単位：人）

学部	文系			理系			
	法	文	経済	医	工	理	農
志望	1655	478	493	510	948	187	337
定員	650	406	350	165	324	116	215
超過	1005	—	143	345	624	71	122

出典：「東大・各大学の入学志願者数 2月15日締め切り」『帝国大学新聞』（1935年2月18日）により作成。

例えば1935年東京帝大の本科入学志願者は基本的に定員枠を大幅に超過しており、受験生にとっては、東京帝大の本科生となるのが、最も厳しい競争であった。こういう状況で、学部の多くは、「一般高校生と異なつた特別な教育を受けた」一高特設高等科卒業者を「高等学校高等科卒業者」同様に受け入れることに抵抗があり、「定員外」という条件付きで受け入れることにしたのであろう。表2は1935年の例であるが、東京帝大の文学部志願者の定員に対する超過率は他の学部ほど高くない。このことが「定員外」と明記しなかった理由だと思われる。農学部は、試験合格者以外に不合格者の中から優秀な10名を特別に入学させる枠を用意するという積極的な対応であり、「また一般高校出の満洲人、中華民国人と特設高等科出との間にも何ら差別は設けず、同等に取扱われることになっている」<sup>(21)</sup>という受け入れ方針であった。これは、当時の農業経済学教室で行われた留学生教育「特別講習会」の存在と関連があると考えられる。「特別講習会」についての詳細は、第三章にて後述する。

## 2. 1935年学部通則の改訂——「外国学生」規定の追加——

1935年6月24日の『帝国大学新聞』では、東京帝大が「増加する外人学生本学も正規に収容」と報じられた。そこでは「但し高校生に絶対優先権」があるという明確な条件があった。『一覽』の記録から見ると、東京帝大の留学生の受け入れは1897（明治30）年の農科大学・朝鮮留学生1名から始まっている。それから長い期間多くの留学生が在籍していたにも関わらず、1935年前半までは「学部通則」に留学生に関する規定がなく、日本人と同じ入学条件で留学生を扱ってきた。

1935年の「学部通則」に初めて外国学生の項目<sup>(22)</sup>が追加された。主な内容とその理由は次のとおりである。

### 一七 外国学生の項を設定

②議決 昭和十年十月八日

④認可 同 十一月十三日

### 学部通則中改正

#### 第十 外国学生

第六十四条 外国人ニシテ学生（通則第二、第八）選科生、又ハ聴講生ニ関スル規定ニ依ラズシテ学部ニ入学ヲ希望スル者アルトキハ明治三十四年文部省令第十五号ノ定ムル所ニ依リ学部ニ於テ銜衡ノ上定員外トシテ之ヲ許可スルコトアルベシ

前項ニ依リ入学ヲ許可セラレタル外国学生ニハ学部ノ定ムル所ニ依リ学生、選科生又ハ聴講生ニ関スル規定ヲ準用ス

第六十五条 外国学生ニシテ学部所定ノ試験ニ合格シタル者ニハ本人ノ志望ニ依リ学力ヲ検定シ高等学校高等科卒業ト同等以上ト認メタルトキハ**学士試験合格証書ヲ付与スルコトヲ得**

第六十六条 外国学生ノ試験手数料、検定料、入学科、授業料及攻究料ハ当該学部長ノ申請ニヨリ之ヲ**徴収セザルコトヲ得**

(略)

附則

本改正規則ハ昭和十年十一月十三日ヨリ之ヲ施行ス

## 1 改正理由

昭和十年十月十日送達

外国人ニシテ本学ニ入学ヲ希望スル者漸次増加セルモ入学資格ニ関スル規定ノ適用困難ナルヲ以テ其ノ希望ヲ達セシメ難ク文部省ニ於テ既ニ明治三十四年省令第十五号ヲ以テ外国人ノ入学ニ関スル規定ヲ発布セラレタルヲ以テ茲ニ新タニ外国学生ノ項ヲ設ケ本学ニ本令ヲ適用実施センカ為メ本改正ヲ必要トス。

(略)

外国人の入学希望者が増加していたが、従来の入学資格規定の適用が困難なため、外国学生の項目を設け、学部通則改正が必要だと改正理由に明示されている。つまり今まで日本高校卒業者しか本科に入学できなかった条件が改正され、日本高校卒ではない外国学生も入学できるようになった。

帝国大学では、学生と生徒の分類があり、学生は本科生と大学院生からなり、選科生、聴講生などは生徒と分類されていた。第64条の「通則第二、第八」は、学部通則第2条（本科生規定）と第8条（大学院生規定）のことであり、本科生と大学院生を指している。「外国学生」規定は、本科生、大学院生、選科生、聴講生に適用することが第64条からわかるが、具体的に内容を見れば、本科生がこの規則の核心部分である。

つまり、第64条に記されている「定員外」がこの規定の鍵であり、厳しい定員制限のない大学院生や選科生、聴講生にはあまり関係がなく、本科生に対する入学条件といえる。

第65条は、外国学生本科生に関する内容であり、彼らは所定の試験に合格さえすれば、定員内の本科生と同じように、「学士試験合格証書を取得」できるのである。

第66条は、すべての外国学生が対象となる「授業料免除」に関する内容であり、当時他の大学では見られない規則であり、注目すべき特徴である。

ここでは「外国学生」という概念を整理しておきたい。明治大正期から昭和初期までに東京帝大に数多くの留学生が本科生として在籍しており、卒業生も少なくなかった。彼らは日本高校の卒業者であり、日本人学生と同じ入学資格を持ち、「定員内」の外国籍の学生であった。「外国学生」規定の内容と従来の留学生受け入れ状況から考えると、規定の本科生に関する内容は、日本の一般高校卒業者ではない外国人入学希望者のためのものであり、日本の高校を卒業した留学生は含まれていない。つまり、外国籍の本科生には、定員内（日本高卒）と定員外（日本高卒ではない）の二種類があり、「外国学生」の定義は、日本高卒ではない留学生を指し、国籍だけで線引きするのではなく、出身学校で区別したと考えられる。

本科生以外の大学院生、選科生、聴講生などは、厳しい定員の制限がなかったため、それまで各学部はそれぞれのルールで対応していた。

大学院生の場合は、従来殆ど東京帝大卒業生から無試験で進学していたが、文学部は1926年に慣例



を破り、中国の北京大学卒の留学生を大学院生として受け入れた。他学部も入学希望者が急増していた1930年代ごろから本格的に中国大学卒の留学生を受け入れ始めた。つまり、「外国学生」規定を公布する前から、中国大学卒の留学生たちに「大学院」の門戸はすでに開かれていた。

### 3. 「外国学生」規定の公布と留学生人数の変動

本科生：「外国学生」規定を実行してから留学生本科生人数に変化が見られた。1930年代の本科生の入学者数は、1930年3名、1931年0名、1932年1名、1933年0名、1934年2名、1935年2名で、6年間に8名であった。「外国学生」規定が設けられた後、1936-1937年の2年間に9名の本科生（法2名、医1名、文3名、農3名）が入学し、その数は増加した。9名はすべて一高特設高等科の卒業生であり、結果から見ると、「外国学生」規定の公布は一高特設高等科卒業生にのみ門戸を開くこととなった。

大学院生：定員制限の厳しい本科生と異なり、大学院生には明確な定員規定がなく、「外国学生」規定公布前から文学部をはじめ、複数の学部が中国大学卒の留学生を大学院生として受け入れていた。規定公布前の1934年から留学生の大学院生数は急増しており、その後も数年増え続けた。つまり、「外国学生」規定は大学院留学生増加に直接的には影響せず、1930年代中国人留日ブームの人数変化に伴う入学志願者の増加（表3を参照）に関係しているといえる。

選科生：東京帝大は明治期から選科生として数多くの留学生を受け入れていたが、昭和初期に留学生選科生を受け入れた学部は、医学部と農学部だけである。その人数からみれば、両学部とも1934年から選科生を受け入れており、1935年に公布された「外国学生」規定の影響は殆ど見られなかった。

聴講生：前述のように、聴講生については不明部分が多かったが、日華学会『名簿』によって昭和期の聴講生数などが大体明らかになった。「外国学生」規定公布前後の人数変化を見ると、学部により異なっていた。文学部の聴講生はすべて「外国学生」規定公布前で、工学部は公布後から聴講生の受け入れを開始した。1935年まで中国大学卒の留学生を一人も受け入れていなかった工学部は、1936-1937年の2年間に聴講生として8名の北平大学などの留学生を受け入れた。おそらく「外国学生」規定が、工学部の留学生受け入れ方針を変えたのであろう。

「外国学生」規定では学生（本科生、大学院生）、選科生、聴講生を対象としていると明記されていたが、重要なポイント（定員外・卒業証書を授与・学費免除の申請）と留学生人数の変動から、これは本科生を主な対象とした規定だとわかる。「外国学生」規定を公布してから、本科生の人数は微増したが、すでに開かれていた大学院及び既存の選科生と聴講生制度に関しては、工学部以外にあまり変化が見られなかった。

明治期から数多くの留学生を受け入れていた東京帝大は、長い間留学生に関する規定がなかった。1935年に「学部通則」で初めて「外国学生」を正式に認めたことは、画期的なことであった。

## 三. 大学院生と医学部の専攻生——留学生数の多い文、農、医学部を中心に——

### 1. 大学院入学希望者

1930年代半ばの中国人第三次留日ブーム期に、来日した高学歴の若者は日本の最高峰の教育機関である東京帝大で学びたい者が殆どであった。また、他の帝大（専攻生として受け入れる）と違い、東京帝大は外国大学の卒業生に大学院入学資格を認めたので、さらに入学希望者が殺到した。東京帝大大学院の入試は競争が激しく、1935・1936年にはそれぞれ100名を超えた出願者の半数ほどしか入学できなかった。

表3 東京帝国大学大学院外国人入学者数／入学希望者数（1933-1937年）

年度	1933	1934	1935	1936	1937
大学院	10／19	37／58	46／103	62／119	38／70

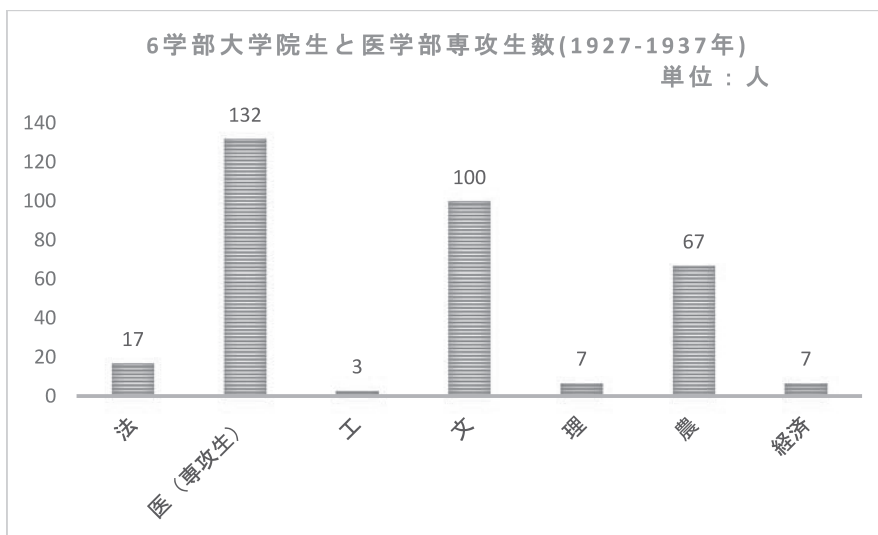
出典：文部省総務局調査課編『大日本帝国文部省年報』第65（自昭和12年4月至昭和13年3月）上巻、文部省総務局調査課、（1943年）、187頁により作成。国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/1451016>

この統計は、すべての外国人入学者と希望者の総数だが、中国人が絶対多数を占めていることは『一覽』からも資料の「名簿」からも見てとれる。

## 2. 大学院生と専攻生の人数

昭和初期の東京帝大中国人留学生の特徴は、大学院生と専攻生の人数が多かった点である。それらの各学部の人数はグラフ4の通りである。1927-1937年の大学院生が多かったのは文学部と農学部であり、それぞれ100名と67名であった。その次は、法学部で17名であった。医学部の専攻生に関しては、4で後述する。

グラフ4



経済学部の留学生大学院生数は多くなかったが、中国大学出身者より他の帝大卒業者が多い（7名中の5名）という特徴があった。それは、経済学部が中国人留学生の入学基準を次のように明確に定めていたからである。

- 一、本邦ニ於ケル他ノ帝国大学ノ法文学部経済学士並京大経済学部及東大法学部政治学科卒業生ハ無試験入学ヲ許可スル事アルベシ
- 一、外国ノ大学ノ卒業生ハ試験上決定ス
- 一、試験科目不定<sup>(23)</sup>

つまり、他の帝国大学の関連学部卒の留学生は、東京帝大卒の留学生と同様に無試験で入学できるが、外国大学卒の留学生に対しては入学試験があったのである。

工学部は留学生大学院生が少なく、3名しかおらず、全員東京工業大学出身で、中国の大学出身者はいなかった。恐らく工学部の試験などは言語的に難しく、日本の大学で基礎的な知識を習得していなければ大学院の進学が難しかったと考えられる。

### 3. 文学部

#### (1) 文学部から始まった大学院の門戸開放

東京帝大の中国大学出身の最初の大学院生は、1926（大正15）年に文学部に在籍していた程衡であり、彼は「カントン現代哲学」を研究する北京大学出身者<sup>(24)</sup>であった。彼の入学は当時の文学部学部長（1924-1926年）服部宇之吉と関連があったと推測できる。

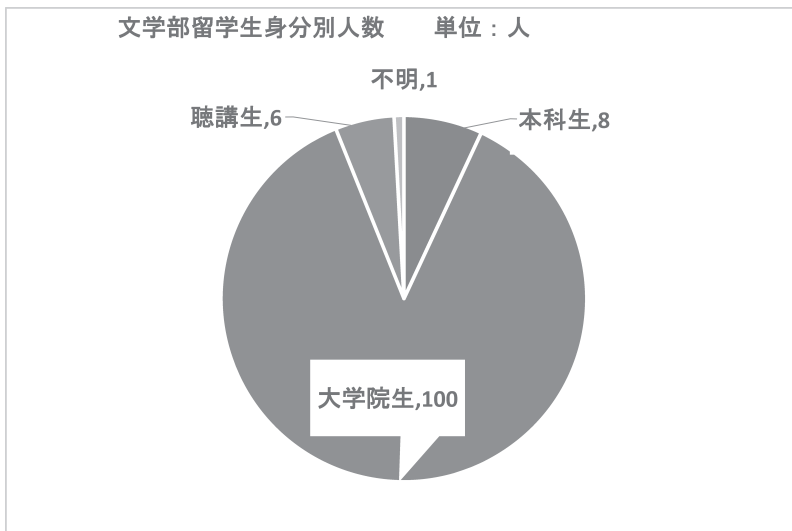
周知のように、服部は、清国の京師大学堂（後の北京大学）の速成師範館の総教習に任じられ、中国の近代師範教育の基礎作りにかかわって、中国の近代教育に大いに貢献した教育者である。1924年に服部の推薦により、東京高等女子師範学校卒業生である中国人留学生鄭聡貽が、東京帝大初めての中国人女性聴講生となった<sup>(25)</sup>。昭和初期に東京帝大文学部は計100名の中国大学卒の大学院生を受け入れ、その数は学部の中では一番多かった。中国大学卒を大学院生の入学条件として認め、積極的に留学生大学院生を受け入れた文学部の取り組みも服部教授がかかわっていたのだろう。

文学部の後に、経済学部は1928年、法学部は1930年、農学部は1933年、理学部は1935年から中国大学卒の留学生を大学院に受け入れ始めた。つまり、文系3学部と農学部は、「外国学生」規定を公布する前からすでに中国大学卒業生に向けて大学院の門戸を開いていたのである。

#### (2) 文学部の大学院生

1927-1937年の東京帝大文学部の中国人留学生総数は115名であり、中でも大学院生が100名おり、他学部に比べて一番多かった。

グラフ5



大学院生の出身校から見ると、北京（北平）大学、北京（北平）師範大学、清華大学など中国の大学出身者が多く、中には、後に中国の著名な外交家となる喬冠華（付番32）や歴史家として知られる楊向奎（付番110）などの名も「名簿」リストにあった。

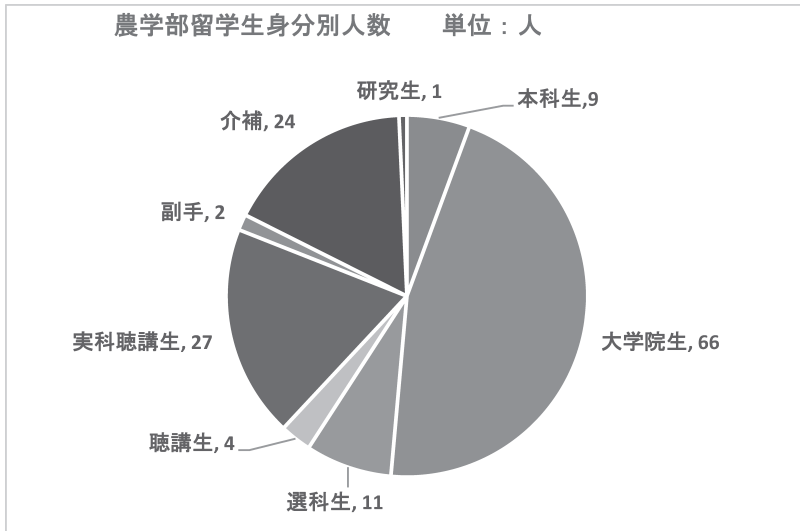
大学院生の研究タイトルを見てみると、中国に関する分野を扱うものが30名余りと多く、西洋哲学

や文学は 20 名余りであった。日本史や日本芸術などの日本や日中関係史に関する研究は 10 数名おり、具体的な研究内容ではなく、教育学、社会学、心理学のように専攻のみ記されているのは 30 名余りであった。

#### 4. 農学部教授・那須浩と「特別講習会」事業

1927-1937 年の農学部中国人留学生総数は、144 名であった。在籍身分の種類が多く、8 種類あった。

グラフ 6



農学部の留学生大学院生の各年度入学人数は、1933 年 3 名、1934 年 11 名、1935 年 20 名、1936 年 16 名と 1937 年 16 名、計 66 名であり、文学部の次に人数が多かった。この現象は、農学部・那須浩教授の申請により、「対支文化事業」の資金援助を受けた「特別講習会」（1934-1940 年）の開講と深くかかわっていた。農学部農業経済学教室の「特別講習会」（「特別な大学院」）の申請経緯、経費、人員構成、講義科目などについては、陳昊と三村達也の研究<sup>(26)</sup>により概ねに明らかになっている。

「特別講習会」は那須浩の「特別な大学院」<sup>(27)</sup>の構想により実現したものであり、その目的は「中華民國留学生ノ為ニ特別ノ講習及指導ヲ為」<sup>(28)</sup>すことであった。

農学部農業経済学教室の「特別講習会」への入学希望者は多く、1936・1937 年にはそれぞれ約 40 名（内 7 名合格）と約 20 名（6 名合格）<sup>(29)</sup>であった。資料の「名簿」からわかるように同時期に介補の在籍身分で入学した留学生は少なかった。彼ら（あるいは一部）は、大学院の厳しい選抜を通らず、介補の身分で農学部に入ったと推測できる。実際に特別講習を受講した留学生の中には、大学院生だけではなく、介補も含まれていた。

表 4 農業経済学教室「特別講習会」受講生の内訳

年度	大学院生	介補（生）	合計
1934	12	3	15
1935	24	7	31
1936	23	4	27
1937	19	2	21

1938年4月30日付の「特別講習会」の「事業概況報告書」に「昭和九年以降既に四ケ年間継続セリ、その間合計四十五名の留学生を収容し、その過半数は夫々予定の研究を終へて帰国し、相当なる要職に就きたり」<sup>(30)</sup>と記録されている。

「特別講習会」の人氣があった背景には、1920-30年代中国で行われた改造・復興農村計画である「郷村建設運動」が深く関連していると思われる。当時農業大国であった中国は、農業生産水準の低下、自然災害、戦乱などの深刻な問題を抱えており、特に20年代末、世界大恐慌の波は中国にも押し寄せ、農民たちは生存の危機に直面し、「農村崩壊」の状態にあった。この状況の中、さまざまな方法で農村社会を改造する実践的な社会運動が始まり、農村、農業、農民を救う方法が模索されていた。農学を専攻する多くの留学生たちは、中国の農村問題を念頭に置いて学習する専攻を選択したのであろう。

「特別講習会」の科目は次のとおりである。1934年度：日本の農業事情及び農業行政、経済学演習、研学上の注意及び日支農村事情の比較、農業法政殊に水利問題；1935年度：農業経済学概論、日本農業事情、経済学演習、農業生産学概論；1936年度と1937年4-6月：明治以後の日本の農業政策、日本農業の展開過程、産業組合原論、日本産業組合史、日本農民史<sup>(31)</sup>。

以上の講習科目から見てわかるように、1935年度の内容は、農業経済の基礎理論を中心とするものであったが、1936-1937年度前半は、産業組合原論以外はすべて日本の農業と関連する科目となり、日本農業の政策や展開過程などが中心だった。この講習内容の転換は、日本農業の経験などを留学生に教え、中国の農村改革運動の参考にさせることを意図していたのだろう。他には、個人指導や、日本農村などへの見学旅行なども行われていた。

年度末に留学生たちが提出した研究報告のタイトルは那須浩の「事業概況報告書」に詳しく記録されており、これらの研究タイトルから、留学生の関心は中国の農村問題に集中していることがわかった。

表5 1934-1936年度における留学生研究報告のタイトル

氏名（身分）	出身校	研究報告タイトル	年度
王金銘（大）	清華大	Agricultural Economics	1934
		中華民国に於ける農村協同組合発展の問題	1935
		農業簿記研究	1936
王寧華（大）	北平大	中国歴代土地政策の沿革及税制の変遷	1934
		農村社会学及び農村社会問題の研究	1935
孫珍田（大）	中国公学大	重農主義の研究	1934
		大小経営に関する比較研究	1935
周鳳岐（大）	清華大	A study of the Land System Modern China	1934
		A Short study of Chinese Land System	1935
揚爾璜（大）	北京大	農業経済学序論	1934
		支那の土地制度の史的発展	1935
王嘉謨（大）	北京大	中国に於ける農村運動	1934
于鳴冬（大）	北平大	中華に於ける農業の重要性を論ず	1934
		小作制度の比較研究	1935
		中国農村経済振興策	1936
李忠樞（大）	北平大	河北省定県農村人口の分析と経済事情	1934
		中国黄土の変化及びその農業経済に対する影響	1935
熊傳寶（大）	北平大	農村政策研究序説	1934
		農業経済学の任務と地位	1935

		経済政策の原理について	1936
邵鴻書 (大)	中山大	日本に於ける農業金融機関に就て 中華民国の農業金融機関に就て	1935 1936
呉春科 (大)	中央大	Problems of Corporative Society	1935
葉守濟 (大)	中央大	中華民国に於ける小作制度	1935
劉世超 (大)	中央大	Revolution of Modern Capitalism with Special Reference to Agriculture 米穀生産費の計算に就て	1935 1936
章振乾 (大)	中山大	福建農村経済之数字的探討与分析 中国に於ける永小作制の研究	1935 1936
張効良 (大)	北平大	中華民国歴代の土地制度及び現代的な各派の土地政策	1935
陳家芷 (大)	北京大	世界農業恐慌と各国の農業政策	1935
李述中 (大)	中山大	農業土地制度改革理論の鳥瞰	1935
盧冠羣 (大)	暨南大	日本農業に於いて注意に値する諸問題	1935
魯昌文 (大)	北京大	中国土地問題中の所有関係と技術問題 日本農業共同経営組合の研究	1935 1936
傅俊儀 (大)	暨南大	中国の農村金融と合作社	1936
張迦陵 (大)	清華大	中国農業経済崩潰の過程及びその構成の現勢	1936
夏道成 (大)	暨南大	中国に於ける農村工業化問題	1936
畢相輝 (大)	清華大	中国農村工業に就て	1936
周自睿 (大)	北平大	小作問題に就て	1936
張百川 (介)	北京大	近代的土地所有制の形成過程	1934
孟昭杜 (介)	河南大	支那の農村経済と産業組合の運動	1935
羅克典 (介)	新民大	支那農業生産論	1936

注：(大)は大学院生、(介)は介補を意味する。

出典：①那須浩の「事業概況報告書」1934-1937年度（「2. 東京帝国大学 自昭和九年至昭和十五年」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.B05015521700、在本邦留学生予備教育関係雑件／特別講習会関係（H-5-40-1\_2）（外務省外交史料館））。

②資料の「名簿」。

東京帝大の学部通則には、副手の規定があったが、介補についての規定などはなかった。資料の「名簿」からわかるように、農学部は、数多くの留学生を介補として受け入れていた。彼らは、大学院に入れなかった入学希望者の一部ではないかと考えられる。那須浩の「事業概況報告書」には「介補生」という表現が複数あった。当時の農学部経済学教室の留学生介補は授業や講習などの補助なども行っていたと推測できるが、中国大学卒の「介補生」の多くは、準大学院生として扱われたのであろう。「事業概況報告書」に記録されているように、介補は「特別講習会」に所属しており、その中の3名は、研究報告も提出していた。

1937年夏、日中戦争の勃発により、殆どの留学生が帰国し、第三次留日ブームは一瞬にして終わった。『一覽』の「生徒及学生姓名」を見ると、農学部は他学部（1939年から帰国した留学生を名簿リストから外した）と違い、1941年までにすでに帰国した留学生が「学生及生徒姓名」に在籍した扱いのままであった。おそらくそれは、1940年まで続いていた「特別講習会」の存在とかわっていたのだろう。

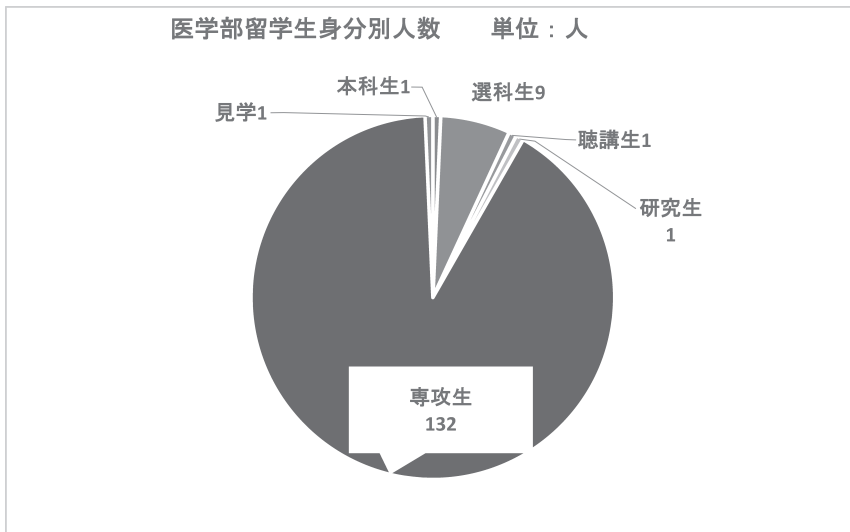
5. 医学部

東京帝大医学部には、明治大正期は留学生本科生も大学院生も在籍していたが、昭和初期になると留学生大学院生は一人もいなかった。その一方、大学院ではなく学部で専攻生として留学生を数多く受け入れていた。

(1) 医学部留学生身分の内訳

グラフ7は、1927-1937年の医学部中国人留学生の在籍身分別の人数を示したものである。専攻生が132名であり、断トツで多かった。

グラフ7



(2) 医学部専攻生

帝国大学の専攻生制度の研究については、山本美穂子の「北海道帝国大学の専攻生制度について」<sup>(32)</sup>がある。山本は東京帝大以外の6帝大の専攻生制度の創設過程及び概容について詳述しており、その性質について次のように指摘している。「専攻生制度は、大学院学生とは別に、研究（攻究）を志望する大学卒業者・専門学校卒業者を学部において受け入れる制度であった」<sup>(33)</sup>。しかし、東京帝大の医学部専攻生に関しては、資料が乏しいためか、最初の女性専攻生の入学と専攻生規定に触れるのみで、殆ど言及がなかった。

東京帝大の専攻生制度は、医学部にのみ設けられた。1937年の『昭和12年度 東京帝国大学医学部便覧』には専攻生について次のように規定されている。

○専攻生

- 一、専攻生ハ本学部教室ニ入りテ医学又ハ薬学ニ関スル特別事項ニ就テ研究スル者トス
- 二、専攻生タラント欲スル者ハ当該教室主任及指導教員ノ承認ヲ経テ学部長ニ願出ツベシ
- 三、専攻生ノ研究ニ要スル費用ハ総テ自弁トス<sup>(34)</sup>

これは、1926年の便覧の内容<sup>(35)</sup>と全く同じであり、規定を改定していないことが確認できる。研究に要する費用は「総テ自弁トス」と定められていたが、他の帝大のように「研究料」として具体的な金

額は示されていない。専攻や教室によって、研究に必要な費用が異なるため、各教室に任せたのだろうか。

医学部専攻生の入学料授業料について、1934年の「支那留学生本学各学部入学希望者取扱標準」<sup>(36)</sup>という資料には「徴収しない」ことが明記されている。

外務省外交史料館に所蔵されている補給留学生に関する資料から、「対支文化事業」中の留学生援助は、「補給」「選抜」「特選」の三種類の補給制度以外に、臨時的に各種の手当や学費援助などの補助金制度も設けられていたことがわかる。東京帝大医学部専攻生章雪琴は1935年の特種補給生の一人であった。彼女の補助金申請関係書類の「特種支那留学生章雪琴ニ対シ学費補給ニ関スル高裁案」に「……本年十一月ヨリ明十一年三月ニ至ル五ヶ月間ノ同人所要学費ヲ支給致度キニ付右ニ要スル金三百円也ヲ補助セラレタキ旨別紙ノ通申出アリタリ」と書かれているので、ここの「学費」は「研究ニ要スル費用」だと考えられるが、この資料では医学部専攻生の研究費用の内訳はわからない。医学部の専攻生に関しては、不明な部分が多く、新たな資料の発掘が今後の課題となる。

専攻生に関しては『一覽』などに記録がなかったのだが、幸い日華学会『名簿』（1927-1944年）に毎年医学部の専攻生が収録されていたので、昭和期の専攻生の人数などはほぼ把握できた。専攻生入学時の年齢や補給留学生申請書類などから見ると、その多数は社会人の経験があった。

東京帝大医学部の留学生専攻生も他の帝大と同様に1930年代半ばに急増した。入学者は1934年12名、1935年48名、1936年34名、1937年18名であり、在籍人数は1936年と1937年は77名に達した<sup>(37)</sup>。

専攻生の入学時期は1934-1937年の間に集中しており、第三次留日ブームと同時期である。東京帝国大学医学部の専攻生制度は、すでに中国で医学教育を受けた留学生たちに、専門知識を深め、さらに研究する機会を与えたのであり、教育水準が高い東京帝大で学べる貴重なルートであった。

## おわりに

日華学会『名簿』と『一覽』に記録されている基礎的データの分析により、昭和初期における東京帝大中国人留学生の全体像が見えるようになった。1927-1937年に入学した中国人留学生総数は、すくなくとも478名であり、各帝大の中で最多であった（次点は京都帝大の287名）。その詳細は次の表6の通りである。

表6 昭和初期（1927-1937年）東京帝大各学部の中国人留学生統計表

学部人数		1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	計
法 22	本科生	1	1						1		1	1	5
	大学院生				1	4		2	4	3	1	2	17
医 145	本科生										1		1
	大学院生												
	選科生	1		1	1				2	2	2		9
	専攻生	1	2	1	7	4	3	2	12	48	35	17	132
	研究生		1										1
	講習	1											1
	見学				1								1
工 18	本科生	1	2		1		1						5



	大学院生									1	1	1	3
	聴講生										2	6	8
	研究生	2											2
文 115	本科生	2			2					1	1	2	8
	大学院生	3		1	5	6		1	16	19	34	15	100
	聴講生	5		1									6
	不明								1				1
理 16	本科生			1					1				2
	大学院生		1					1		2	1	2	7
	聴講生								1		5	1	7
農 144	本科生	2	1	2						1	2	1	9
	大学院生							3	11	20	16	16	66
	選科生								1	1	3	6	11
	聴講生					2			1			1	4
	実科聴講生	6	4	2	7	1	2	1	4				27
	副手				1	1							2
	介補		1		1		3	3	5	7	4		24
	研究生	1											1
経済 18	本科生		1	1									2
	大学院生		1	1		1		1	2		1		7
	聴講生	1							1	3		4	9
	合計	27	15	11	27	19	10	13	63	108	110	75	478

東京帝大は、それぞれの学部の独自性が強く、留学生の取扱い基準なども学部により異なっていた。医、文、農学部は留学生数が多く、工、理、経済学部及び法学部は少なかった。在籍身分をみると、各学部の違いも明白である。法学部は5名の本科生以外は全員大学院生であった。文学部と農学部は、大学院生を中心に数多くの留学生を受け入れたが、工、理、経済学部は、聴講生が一番多かった。医学部は、大学院生は一人もいなかったが、数多くの専攻生を受け入れた。

東京帝大の留学生本科生は、他の大学院生、選科生、聴講生、専攻生と異なり、日本人と同様に日本高校卒が入学条件であり、1935年まで変わらなかった。その要因は、厳しい定員制限と激しい入学競争にあり、東京帝大が日本高校卒業生優先の政策を採っていたからであった。「外国学生」規定の公布後、一高特別高等科卒業生の入学資格が「定員外」として認められるようになり、「名簿」でも1936・1937年に一高特別高等科出身の留学生各9名の入学が確認できた。

本科生以外の留学生の受け入れは、学部によって方針が異なったが、すべての学部は中国大学卒の留学生を受け入れていた。文学部と農学部は、大学院生として積極的に受け入れ、農業経済学教室では「対支文化事業」の一環として留学生教育を行う「特別講習会」が開講された。両学部の積極的に大学院生を受け入れる方針は、文学部の服部宇之吉と農学部的那須浩両教授の努力が欠かせなかったであろう。一高特別高等科卒業生の本科入学を拒否した工学部さえも、1936年からは聴講生として中国大学出身の留学生を迎えた。

東京帝大の留学生は、1930年代半ばの中国人第三次留日ブーム時期に集中していた。第三次留日ブームは、円安が一番の要因で引き起こされたものであり、私費留学生が中心であった<sup>(38)</sup>。留学生入学希望者が殺到した状況の中、東京帝大は明治期の「消極的」な留学生方針と違って、本科生以外の大学院生や専攻生などの枠で積極的に留学生を受け入れたのである。東京帝大の昭和期中国人留学生の特徴は大学院生と専攻生を中心としたものであった。

中国人の帝大留学は、中国国内の高等教育の発展と非常に密接な関係があり、互いに影響し合ったのである。中国の高等教育の発展と普及は、帝国大学で学ぶことを希望する留学生に必要な学力の基礎を築いた。東京帝大大学院の門戸開放と医学部の専攻生制度は、高学歴な中国知識人に再学習と研究を深めるチャンスを提供した。他方、中国人の入学希望者が殺到したことが、東京帝大の学部の留学生受け入れ方針や、入学制度などの改革を促進した側面もあった。

留学生の人数や専攻などの基礎的データから、留学生政策や背景を探究する方法は、立体的に当時の留学生の全体像をとらえるだけではなく、文献資料がまだ十分に把握されていない帝国大学の各学部の方針や政策をも浮かび上がらせる効果があるのではない。

本稿は、中国人帝国大学留学に関する基礎的研究の一環であり、これが今後の帝国大学研究に役に立つことができれば幸いである。

【付記】 本論文はJSPS 科研費(23K02070)の助成によるものである。本稿の文責はすべて著者にある。資料の「名簿」の作成にあたり、潘吉玲氏の協力があつた。ここに謝意を表したい。

## 注

- (1) 所澤潤「外国人留学生取扱二関スル調査委員会」(昭和17〔1942年〕年・東京帝国大学)の記録,「東京大学における昭和20年(1945年)以前の女子入学に関する資料」(『東京大学史紀要』9, 1991年);「東京帝国大学における大東亜戦争後半期の外国人留学生受入状況——「外国学生指導委員会」の活動を中心に——」(『東京大学史紀要』10, 1992年)など。
- (2) 九州大学博士論文, 2008年10月。
- (3) 同志社大学社会学部教育文化学研究室『教育文化』第28号, 181-202頁。
- (4) 孫安石・大里浩秋編著『中国人留学生と「国家」・「愛国」・「近代」』東方書店, 2019年, 259-283頁。
- (5) 孫安石・大里浩秋編著『明治から昭和の中国人日本留学の諸相』東方書店, 2022年, 253-273頁。
- (6) 日華学会『名簿』は政局の変化により何度も名称を変えた。第1版(1927年)から6版までは、『留日中華学生名簿』であったが、「満洲国」が成立したため、第7版から10版までは、『留日学生名簿』に、第11版から13版までは『中華民国・満洲国留学生名簿』となった。1935年から駐日「満洲国」大使館が留学生の統計を取り始めたので、『名簿』は第14版から中華民国留学生のみを調査することになり、『中華民国留日学生名簿』と改称した。
- (7) 神奈川大学人文学研究所『人文学研究所報』No. 71, 2024年3月, 169-193頁。
- (8) 東京大学百年史編集委員会『東京大学百年史 通史二』東京大学出版会, 1985年, 148-150頁。
- (9) 同上, 147頁。
- (10) 中国人留学生の年度ごとの総数は、1934年2340人、1935年3527人、1936年5909人、1937年5945人であった。「表5-1 中国人留学生の総人数表(1905-1944年)」(拙著『近代中国人日本留学の社会史——昭和前期を中心に——』東信堂, 2020年)60頁参照。
- (11) 葉篤莊著・孟繁之整理『一片冰心在玉壺 葉篤莊回憶録』山西出版傳媒集團・山西人民出版社, 2014年, 147-184頁。
- (12) 『東京帝国大学要覧 昭和9年度』, (1934年), 210-220頁。
- (13) 「東京高等農林学校」『第10版 留日学生名簿』昭和11年6月現在, 日華学会学報部, (1936年), 28頁。
- (14) 前掲: 葉篤莊著・孟繁之整理『一片冰心在玉壺 葉篤莊回憶録』507頁。
- (15) 『東京帝国大学一覽 従大正9年至大正10年』(1920-1921年), 91頁。
- (16) 韓立冬「旧制第一高等学校特設高等科の留学生教育」『アジア地域文化研究』No. 7, 2011年3月, 4-5頁。

- (17) 第一高等学校『第一高等学校 60 年史』1939 年, 532 頁。
- (18) 前掲：陳昊『近代日本における中国人留学生受け入れに関する研究：明治専門学校, 東京・九州帝国大学の事例に即して』121-123 頁；韓立冬「旧制第一高等学校特設高等科の留学生教育」11-12 頁。
- (19) 『文部省往復』S9・A190；S0001・Mo198, 東京大学文書館所蔵。
- (20) 同上。
- (21) 「東大への連絡を工学部拒否す」『帝国大学新聞』1935 年 1 月 28 日。
- (22) 前掲：『東京大学百年史 資料一』685-686 頁。
- (23) 「支那留学生本学入学希望者取扱ニ関スル件」(1934 年 1 月)『昭和 9 年 留学生関係』S0008 SS3 12, 東京大学文書館所蔵。
- (24) 「学生生徒氏名」(大正 15 年 6 月末現在) 8 頁, 『東京帝国大学要覧 従大正 14 年至大正 15 年』(1925-1926 年)。
- (25) 拙著『中国人女性の日本留学生史研究』国書刊行会, 2000 年, 124-130 頁。
- (26) 前掲：三村達也「『対支文化事業』における「特別講習会」——東京帝国大学農学部的事例を中心に——」259-283 頁；陳昊『近代日本における中国人留学生受け入れに関する研究：明治専門学校, 東京・九州帝国大学の事例に即して』128-137 頁。
- (27) 那須浩『惜石舎雑録』財団法人農村更生協会, 1982 年, 115 頁。
- (28) 那須浩「中華民国留学生講習指導費補給願」1936 年 5 月 1 日(「2. 東京帝国大学 自昭和 9 年至昭和 15 年」JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.B05015521700, 在本邦留学生予備教育関係雑件／特別講習会関係(H-5-4-0-1\_2) (外務省外交史料館))。
- (29) 那須浩「中華民国留学生講習指導費補給願」1936 年 5 月 1 日；那須浩「中華民国留学生講習指導費補給願」1937 年 4 月 31 日(同上)。
- (30) 那須浩「中華民国留学生講習指導費補給願」1938 年 4 月 30 日(同上)。
- (31) 那須浩「事業概況報告書」1934-1937 年度(同上)。
- (32) 山本美穂子「北海道帝国大学の専攻生制度について」『北海道大学文書館年報』2014 年 9 月, 20-41 頁。
- (33) 同上, 38 頁。
- (34) 『昭和 12 年度 東京帝国大学医学部便覧』(1937 年), 33 頁。『東京帝国大学医学部便覧』は, 縦 11 cm, 横 7.5 cm の携帯用の小冊子である。「学年及休業」, 「入学, 在学, 退学, 休学」, 「授業料」, 「学科課程及試験規程」, 「選科生」, 「医学講習科生」, 「専攻生」, 「大学院生」などの 19 項目の内容となっており, 計 100 頁余りのものである。
- (35) 前掲：所澤潤「東京大学における昭和 20 年(1945 年)以前の女子入学に関する資料」65 頁。
- (36) 「一, 教室主任及指導教員ノ承認ヲ経タル者ヲ許可ス 入学料授業料ナシ 研究ニ要スル費用ハ自弁ナリ」。「支那留学生本学入学希望者取扱ニ関スル件」『留学生関係 昭和 9』S0008, 東京大学文書館所蔵。
- (37) 前掲：拙論「帝国大学における中国人留学生(1927-1937 年)」8 頁。
- (38) 拙論「国民政府時期的公費留学生」(中国語)(「国民政府時期における官・公費留学生について」)中国第二歴史档案馆民国档案雜誌社『民国档案』総第 115 期, 2024 年 2 月, 101-111 頁。

#### 資料：「東京帝国大学中国人留学生名簿——昭 2-12 (1927-1937) 年の入学者——」

##### 凡例：

本名簿は主な資料として日華学会作成の『留日中華学生名簿』(時期によって 3 度改題しているが, ここでは以下日華学会『名簿』各年版をもととして, その他に『東京帝国大学一覽』(時期によっては『東京帝国大学要覧』, 以下『一覽』)のデータを補足して作成したものである。

本名簿は, 学部別に入学年度順, 入学年度が不明な場合は在籍年度順に並べた。同じ年度の場合は本科生, 大学院生, 選科生, 聴講生, 実科聴講生, 専攻生, 研究(生), 副手, 嘱託, 介補, 講習, 実習, 見学の順に配列した。1932 年から「中華」「満洲国」の順で情報を加えている。

以下は, 項目欄の説明である。

「省籍」：日華学会『名簿』には「省県」のデータがあるが, 本資料では県・市を省いて省籍のみ掲載している。年により異なる省籍が記録されている場合や省の改称(例：吉林・河北；奉天・遼寧)なども原資料のまま

記載している。日華学会『名簿』には「満洲国」成立後も、省、県などの情報しか記されておらず、「満洲国」という表記はなかった。『一覧』には留学生の出身国が記録されており、中国人留学生の場合は、学部や年度により「支那」または「中華」、「中華民国」と記されている。「満洲国」成立後に、『一覧』では満洲(国)の記載が始まった。本名簿では、「満洲国」留学生の省籍の後に「満」を加えた。

「身分」：学生身分の種類としては、本科生、大学院生、選科生、聴講生、実科聴講生、専攻生、研究(生)、副手、介補、講習、見学があり、本項目欄では本、大、選、聴、実科聴、専、研、副、介、講、見と略記した。

「学科または専攻」：学部の学科または専攻を以下のように略記した。

法学部：法律学科、政治学科を法、政；医学部：医学科、薬学科、眼科学、内科学、伝染病学、薬化学、生薬学、衛生裁判化学、歯科学、臓器薬品化学を医、薬、眼、内、伝染、薬化、生薬、衛生裁判化、歯、臓器薬品化；工学部：機械工学科、鉱山及冶金学科、建築学科、造兵学科、火薬学科を機械、鉱山及冶金、建築、造兵、火薬；文学部：哲学科、支那哲学科、英吉利文学科、独逸文学科、教育学科、社会学科、言語学科、東洋史学科、西洋史学科、考古学科を哲、支那哲、英、独、教、社、言語、東洋史、西洋史、考古；理学部：物理学科、地質学科を物、地質；農学部：農学科、林学科、農芸化学科、獣医学科、農業土木学科、農業経済学科、水産学科を農、林、農芸化、獣医、農土木、農経、水産；経済学部：商業学科を商と略記した。

「出身校」：日華学会『名簿』では、出身校の記録が同じ学校でも年度により異なる表記とされることがあったが、本名簿では基本的に略称で統一する。

「学費別と年数」：日華学会『名簿』では年度によって費用の名称が異なる記録があるが、基本的に以下のように統一した。省費・省官費・官費・「満洲国」の民生部補助費を官費扱いとして「官」；満鉄給費を「満鉄」とし、貸費はそのままとした。補・一般補給・文化補給・文化一般補・補給は「補」；選抜・文化選抜は「選」；特選・文化特選は「特」と略記した。自費または不明の場合は空欄とした。学費の受給年数は、日華学会『名簿』各年版の記録から数えたものである。

「入学年月」：入学は日華学会『名簿』と『一覧』による情報である。

「本科生卒業年月または大学院生の研究テーマ」：本科生卒業年月は各年度『一覧』の「卒業生姓名」の記録であり、大学院生の研究テーマは、各年度『一覧』の「学生生徒姓名」の「大学院生名簿」によるものである。

「在籍年度」：日華学会『名簿』の記録及び『一覧』(大学院生、本科生、選科生のみ)による情報である。下線付きの在籍年度は、推定である。日華学会『名簿』は、各学校から提供された留学生名簿からなったものであり、東京帝大の場合は、各学部から提供された名簿をまとめたものようである。そのために東京帝大の留学生名簿の収録範囲は、年度と学部により異なることがあり、特に農学部の副手と介補が収録されていない年度が複数あった。該当者の連続データがない場合でも、収録されていた年度の入学年月の記録を根拠に推定される在籍年度には、1928-1930のように下線を付した。例えば、1928-1929年の日華学会『名簿』には名前がない医学部の付番6の曾廣方は、1930年にだけ記録されているのだが、入学年度は「1928.4」と明記されているため、在学年度を1928-1930としてある。

1938年度から在学していない留学生について、その多くを日華学会『名簿』は姓名の上に○印(在籍しているが、帰国した不在校者の印)で明示しているが、1938年の『一覧』は在校生と区別なく氏名を記載していた。東京帝大の農学部では1941年まで、数多くの帰国した留学生の学籍が留保されていた。

「帰国(中)」：『一覧』には記録がなく、日華学会『名簿』の記録によるもの(○印あるいは記録なし)である。

日華学会『名簿』は、主に各学校の報告により集計されたデータなので、信ぴょう性が高いものの、在籍していた留学生がすべて網羅されているわけではないこと(例えば法学部付番2徐鴻馭、文学部付番20李白華、農学部付番113王兆澄と137凌健雄)が、本名簿の作成によりわかった。『一覧』には、本科生、大学院生と選科生のみが収録されており、多数いた聴講生、実科聴講生、専攻生、副手、介補などが含まれていない。また、その統計時期は年によって異なり、一年以上期間が開いている場合もある。そのため収録から漏れている学生もいる。

名簿の作成にあたって誤記や遺漏などは避けられないことだが、本名簿が東京帝国大学中国人留学生の全体像をとらえる一助となれば、幸いである。

	姓名	省籍	学科または専攻	身分	出身校	学費別と年数 空白：自費または不明	入学（採用・嘱託）年月	本科生卒業年月または大学院生研究タイトル	在籍年度	帰国(中)	筆者注及原資料記録 (日華学会『名簿』)・ [[『一覧』]]	出典
<b>法学部 22名</b>												
1	蔡岳賢	江蘇	法	本	八高	補3	1927. 4	1930. 3	1927-1929			①②
				大	東大法	補2	1930. 4	手形法	1930-1931			①②
2	徐鴻馭		政	本					1928			②
3	吳墩禮	福建		大	北平大法学院	補1	1930. 4	外交史	1930-1933		[北京大]	①②
4	何作霖	広東		大	北平大法学院	官1特2	1931. 4	憲法	1932-1935		[北京大]	①②
5	金国珍	湖北		大	北平大法学院	官1特1	1931. 4	地方行政学	1932-1934	1932	1932年に (一時帰国)	①②
6	吳宿光	安徽		大	北平大政治学部		1931. 4	国際法	1931-1932	1932	同上	①②
7	鄭蘭積	広東		大	北平大政治学部		1931. 4	外交史	1931-1932	1932	同上	①②
8	蔡樞衡	江西		大	中央大		1933	刑法学	1933-1934			①②
9	張秀哲	福建		大	暨南大	特2	1933	外交史・国際政治	1933-1935		1935年に [国際政治]	①②
10	林誠厚	湖北	法	本	一高	選3	1934	1937. 3	1934-1936			①②
11	韓桂琴 (女)	河北		大	北平大	選2特2	1934	外交史	1934-1938			①②
12	李祥麟	山東		大	上海中国公学大		1934	国際公法	1934-1937			①②
13	劉景祥	吉林「満」・河北		大	北平大		1934	国際公法	1934-1937			①②
14	孫世英	河北		大	北平大	選1	1934	憲法	1934-1936		1934年 農学部にも 在籍*1	①②
15	陳玉符	広東		大	燕京大		1935	外交史	1935-1937			①②
16	胡澤吾	江蘇		大	北平大		1935	憲法	1935-1936			①②
17	譚庶潜	四川		大	北平大		1935	政治学	1935-1938			①②
18	段栢 (柏林)	奉天「満」	法	本	一高特設	選3	1936	1939. 3	1936-1938			①②
19	万仲文	広東		大	上海法科大		1936	外交史	1936-1938		1936年に (上海大)	①②
20	姚繼崇	浙江	法	本	一高特設	官1	1937		1937-1938			①②
21	李潤沂	山西		大	北平大		1937	行政法	1937-1938			①②
22	劉競	浙江		大	中央大		1937	政治学	1937-1938			①②
*1 孫世英：1934年の『一覧』大学院生名簿に、法学部（憲法 孫世英）と農学部（農政学 孫世英 北平大）名前が載っていたが、同年の日華学会『名簿』では法学部大学院に在籍しており、農学部の記録はなかった。1935-1936年の『一覧』にも日華学会『名簿』にも農学部には名前がなく、法学部大学院生であった。												
<b>医学部 145名</b>												
1	張景澄	直隸	眼	選	北京医大専門部		1927. 4		1927			①②
				専	北京国立医大	補1	1927. 4		1929			①

2	張清芬	湖北	伝染	講	東大獣医科実科, 北海大研	補 1	1927. 4		1927			①
3	屠寶琦	浙江	内	專	北京医学専門		1927. 5		1927			①
4	沈其震	湖南	医	專	上海同濟大		1928. 4		1929-1930			①
5	周詩勛	江蘇	医	專	江蘇医科大	補 2	1928. 4		1929-1931			①
6	曾廣方	広東	医	研	東京高工		1928. 4		1928-1930		1928-1929年 には記録なし	①
7	汪良寄	浙江	衛生裁判化学	選	省医薬專	補 1	1929. 4		1929			①②
				專	浙江薬專		1930. 4		1930			①
8	袁淑範	遼寧	医	專	南滿洲医学堂	特 2	1929. 11		1929-1931			①
9	劉伝箴	山東	医	選	山東省立医專		1930. 4		1930			①②
10	陳炎冰	広東	医	專	広東医科大		1930. 4		1930			①
11	姜書梅	江蘇	医	專	上海同徳医專	官 1	1930. 4		1930-1931			①
12	李鍾雅	河北	医	專	北平大医学院	官 1 補 1	1930. 4		1930-1931			①
13	黄 湘	浙江	医	專	江蘇医科大	補 1	1930. 4		1930-1931			①
14	劉建燕	湖南	医	專	浙江医專		1930. 4		1930-1931			①
15	徐 斌	浙江	医	專	国立北京医專	補 1	1930. 4		1930-1931			①
16	張汝焯	広東	医	專	上海南洋医科大		1930. 4		1930-1931			①
17	伍鴻章	福建		見	厦門博愛会医学校				1930			①
18	沈 毅	福建		專	北平大医学院	選 1	1931. 1		1931-1933			①
19	呉士綬	浙江		專	浙江省立医專	選 3 特 1	1931. 5		1931-1935			①
20	顧振群	江蘇	医	專	江蘇南通大医学科		1931		1931			①
21	鄭推先 (女)	浙江	医	專	東京女子医專	補 1	1931		1931			①
22	黄柏昌	広東		專	北平大学院	選 1	1932. 4		1932			①
23	劉景啓	河北		專	北平大医学院		1932		1933			①
24	謝逸智	福建		專	上海東南医学院		1932		1933			①
25	崔暉邦	広東		專	広東光華医学院		1933		1933-1935	1935. 4	(1935. 4 月 帰国)	①
26	王同観	山東		專	北平大医学院	官 1	1933		1934-1935			①
27	呉自積	浙江	生薬	選	浙江省立医薬專				1934			①②
				專	浙江省立医薬專薬科	選 2	1935		1935-1936			①
28	盧叔達 (遠)	浙江	菌	選	南洋医学院				1934			①②
		浙江		專	南洋医学院	選 2	1935		1935-1936			①
29	范鴻簡 (簡)	湖北		專	北平大医学院				1934-1935	1934. 9, 1935	(1934. 9 月 帰国) 1935 年〇印	①
30	何君平	広東		專	南洋医学院		1934		1934-1935			①

31	金蔭權	安徽		專	北平協和醫科 大		1934		1934-1935			①
32	劉燕公	山東		專	北平大醫學院	官 1	1934		1934-1937			①
33	王蘭亭	河南		專	北平國立醫科 大專門部		1934		1934-1935			①
34	吳淑嫻 (姻)(女)	江蘇		專	江蘇南通醫科 大		1934		1934-1935			①
35	章雪琴 (女)	浙江		專	浙江省立醫藥 專	選 1	1934		1934-1937			①
36	陳天啓	安徽		專	北平大醫學院		1934		1934-1935			①
37	郭錫麟	山東		專	北平大醫學院	官 3	1934		1934-1937			①
38	賀德潛	河北		專	北平大醫學院		1934		1934-1936			①
39	金慧敏 (女)	浙江		專	浙江省立醫藥 專		1934		1934-1936			①
40	羅子和	浙江		專	上海醫學院		1934		1934-1937			①
41	沈 儉	江蘇	臟器藥 品化	選	長崎醫大藥學 專門部	選 1	1935		1935			①②
42	侯(候) 奉瑜	雲南	藥化	選	浙江省立醫藥 專		1935		1935			①②
				專	浙江省立醫藥 專		1936		1936			①
43	陸賞宗	廣西		專	北平陸軍軍醫 學校藥科		1935		1935			①
44	羅嵩翰	廣東		專	北平大醫學院		1935		1935			①
45	呂与心	廣東		專	廣東光華醫學 院		1935		1935			①
46	嚴寶珩	廣西		專	北平國立醫專		1935		1935			①
47	董奎先	江蘇		專	南通大醫科		1935		1935-1937		1937 年に (1934) 入学	①
48	何馥貞 (女)	江蘇		專	東南醫學院		1935		1935-1936			①
49	瞿承立	江蘇		專	上海東南醫學 院		1935		1935-1937			①
50	沈清海	浙江		專	浙江省立醫藥 專醫科		1935		1935-1936			①
51	崔榮第	河北		專	河北醫學院		1935		1935-1936			①
52	肅道嘉	廣東		專	中山大		1935		1935-1936			①
53	胡國衡	廣東		專	廣東光華醫大		1935		1935-1936			①
54	黃孟彝	廣東		專	廣東大		1935		1935-1936			①
55	李芳春	山西		專	山西川至醫專		1935		1935-1936			①
56	歐陽昌	廣東		專	廣東光華醫大		1935		1935-1936			①
57	綦建鎰	山東		專	北平大		1935		1935-1936			①
58	裘中聲	浙江		專	浙江醫專		1935		1935-1936			①
59	沈成章	江蘇		專	東南醫學院		1935		1935-1936			①
60	蘇自權	廣東		專	廣東光華醫大		1935		1935-1936			①
61	孫生桂	河北		專	河北醫學院		1935		1935-1936			①
62	汪世彰	江蘇		專	浙江醫藥專		1935		1935-1936			①

63	王琴 (女)	浙江		專	浙江醫藥專		1935		1935-1936			①
64	宓策	浙江		專	東南醫學院		1935		1935-1936			①
65	鍾興	廣東		專	廣東醫藥專		1935		1935-1936			①
66	宗振璠	山東		專	北平大		1935		1935-1936			①
67	周培	浙江		專	浙江醫藥專		1935		1935-1936			①
68	安儒	河北		專	北平大醫學院		1935		1935-1937			①
69	曾友諒	廣東		專	廣東大醫科		1935		1935-1937			①
70	陳醴泉	浙江		專	南通大預科		1935		1935-1937			①
71	陳明波	廣東		專	東南醫學院		1935		1935-1937			①
72	陳衍疇	廣東		專	上海同德醫學		1935		1935-1937			①
73	樊際春	浙江		專	浙江省立醫藥專		1935		1935-1937			①
74	馮固	浙江		專	東南醫學院		1935		1935-1937			①
75	郭懷德	山西		專	山西川至醫專	官 1	1935		1935-1937			①
76	胡成儒	山東		專	青島醫專	選 1	1935		1935-1937			①
77	許卓人	河南		專	河北北方大專門部		1935		1935-1937			①
78	李寶新	廣東		專	廣東光華醫學院		1935		1935-1937			①
79	繆佳(住南)(女)	江蘇		專	北平大醫學院		1935		1935-1937			①
80	裘啓宇	浙江		專	浙江省立醫專		1935		1935-1937			①
81	史書翰(翰)	山西		專	山西川至醫專	官 1	1935		1935-1937			①
82	唐湘	福建		專	東南醫學院		1935		1935-1937			①
83	唐晟初	湖南		專	東京醫專		1935		1935-1937			①
84	王吉臣	江蘇		專	江蘇省立醫大		1935		1935-1937			①
85	王景祺	河北		專	山西川至醫專		1935		1935-1937			①
86	尤仙航	陝西		專	北平大醫學院	官 1	1935		1935-1937			①
87	遊天翔	浙江		專	東南醫學院		1935		1935-1937			①
88	王學潛	安徽		專	東南醫學院		1935		1935-1937			①
89	徐政聞	山東		專	滿洲醫大	特 1	1935		1935-1937			①
90	熊正瑜	江西		專	江西省立醫專		1935		1935-1937			①
91	錢端禮	浙江	醫	本	一高	選 4	1936	1940. 3	1936-1939			①②
		浙江		大	東大醫	選 1 補 4	1940	外科學一般	1940-1944		(1940. 4 副補囑託)	①②
92	葵漢威	福建	內	選	聖約翰大		1936		1936			①②
93	張新道	廣東	齒	選	東南醫學院		1937		1936			①②
94	陳經濟	廣東		專	東南醫學院		1936		1936			①
95	何彬(女)	河北		專	河北醫學院		1936		1936			①
96	謝振仁	福建		專	中山大		1936		1936			①
97	趙亦累	廣東		專	廣東光華醫大		1936		1936			①
98	岑仲玥(女)	浙江		專	東京女子醫專		1936		1936-1937			①



99	陳大謨	浙江・ 広東		専	国立軍医学校		1936		1936-1937			①
100	高福為	浙江		専	浙江省立医薬 専		1936		1936-1937			①
101	何芸輝 (女)	浙江		専	浙江省立医薬 専		1936		1936-1937			①
102	胡猷司	江西		専	東南医学院		1936		1936-1937			①
103	李新海	福建		専	東南医学院		1936		1936-1937			①
104	梁淑莊 (女)	江西		専	東京女子医専		1936		1936-1937			①
105	唐叔培	浙江		専	浙江省立医薬 専		1936		1936-1937			①
106	譚伯俊	広東		専	東南医学院		1936		1936-1937			①
107	沈開基	浙江		専	浙江省立医薬 専		1936		1936-1937			①
108	唐錫恩	河北		専	浙江医薬専		1936		1936-1937		1937年に (北平医専)	①
109	汪時章	浙江		専	南洋医科大		1936		1936-1937			①
110	王毓琛	河北		専	河北省立医学 院		1936		1936-1937			①
111	徐成蒸	福建		専	山東医専		1936		1936-1937			①
112	楊景培	広東		専	広東光華医学 院		1936		1936-1937			①
113	姚錫福	浙江		専	東南医学院		1936		1936-1937			①
114	趙淡予	広東		専	北京医専		1936		1936-1937		1937年に (広東医専)	①
115	趙雲舒	広東		専	広東医薬専		1936		1936-1937			①
116	鍾 英	江西		専	浙江省立医薬 専		1936		1936-1937			①
117	朱 燁	浙江		専	浙江省立医薬 専		1936		1936-1937			①
118	岑猷環	浙江		専	広済医専		1936		1936-1937			①
119	韓宗琦	浙江		専	浙江省立医薬 専		1936		1936-1937			①
120	李長治	浙江		専	上海同徳医専		1936		1936-1937			①
121	陳季植	広東		専	広東光華医学 院		1936		1936-1937			①
122	唐如佗	江蘇		専	亜東医科大		1936		1936-1937			①
123	吳 文	広東		専	香港大		1936		1936-1937			①
124	虞和介	浙江		専	浙江省立医薬 専		1936		1936-1937			①
125	張文素	広東		専	広東中山医大		1936		1936-1937			①
126	趙貫言	広東		専	広東光華医学 院		1936		1936-1937			①
127	錢祖武	浙江		専	浙江省立医薬 専		1936		1936-1937			①
128	陳璧明 (女)	浙江		専	上海同徳医学 院		1937		1937			①

129	陳維傑	福建		專	福建幹部陸軍		1937		1937			①
130	陳澤民	福建		專	福建延平醫專		1937		1937			①
131	方肖傑 (女)	浙江		專	浙江省醫藥專		1937		1937			①
132	韓雲峰	河北		專	北平陸軍醫學校		1937		1937			①
133	華世英	雲南		專	上海東南醫學院		1937		1937			①
134	可丙壇	廣東		專	廣東光華醫學院		1937		1937			①
135	梁開志	廣東		專	廣東光華醫學院		1937		1937			①
136	龐爾秀	山西		專	北平大醫學院		1937		1937			①
137	彭若愚	江西		專	江蘇南通大醫學院		1937		1937			①
138	瞿亞宏	江蘇		專	上海同德醫學院		1937		1937			①
139	全亞莉 (女)	江蘇		專	東京女子醫專		1937		1937			①
140	吳之祥	江西		專	國立北平大醫科		1937		1937			①
141	徐佐周	山東		專	北平大醫學院		1937		1937			①
142	葉信誠	浙江		專	上海東南醫大		1937		1937			①
143	章冕南	江蘇		專	上海南洋醫大		1937		1937			①
144	張甫文	福建		專	重慶醫科大		1937		1937			①
145	張文奇	河北		專	北平大醫學院		1937		1937			①

工学部 18名

1	李文厦	湖南	鉦山及 冶金	本	五高	補 1	1927. 4		1927-1928			①②
2	喬学広	山西	火薬	研	東京高工		1927. 4		1927			①
			火薬	副	東京高工		1928. 5		1928-1930	工学部は 1930年だけに 副手が収録 された	①	
3	張 準	奉天・ 遼寧	建築	研	東京高工	補 1	1927. 5		1927			①
			建築	副	東京高工	特 1	1927. 4		1927-1930	工学部は 1930年だけに 副手が収録 された	①	
4	李岐山	河北	鉦山及 冶金	本	三高	選 1 補 2	1929. 4	1932. 3	1929-1931			①②
5	段(殷) 寶堃	奉天・ 遼寧	鉦山及 冶金	本	佐賀高	官 1	1929. 4	1932. 3	1929-1931			①②
												1931年に (満鉄ヨリ 受給中ノ由 ナルモ不 詳)

6	聶恒斌	奉天・遼寧	機械	本	一高	補3(官1)	1930.4	1933.3	1930-1932		1932年に複費：補・官	①②
				大	東大工	選2	1933	航空原動機	1933-1934		中華→「満」	①②
7	高慶春	吉林「満」	造兵	本	八高	官3	1932.4	1935.3	1932-1934			①②
				大	東大工		1935	砲外弾道及其レニ関スル諸事項	1935	1935	1935年に(近ク退学帰国予定)	①②
8	鮑観達	広東		大	東京工大	官1	1935	火薬学ニ関スル研究	1935-1936			①②
9	劉熾章	広東		大	東京工大		1936	火薬学ニ関スル研究	1936-1937			①②
10	盧冠軍	広東		聽	中山大		1936		1936			①
11	毛乃琅	浙江		聽	北平大		1936		1936-1937			①
12	陳子英	広東		大	東京工大		1937	火薬学ニ関スル研究	1937-1938	1938		①②
13	陳猷榮	広東		聽	南京中央大		1937		1937			①
14	何最渠	福建		聽	北平大		1937		1937			①
15	陸志道	浙江		聽	浙江大		1937		1937			①
16	沈貫甲	江蘇		聽	南京中央大		1937		1937			①
17	沈詒毅	浙江		聽	上海雲湖大		1937		1937			①
18	張佩璜	山西		聽	山西大		1937		1937			①
文学部 115名												
1	葛宏	江西	教	本	八高	官2補2	1927.4	1931.3	1927-1930			①②
2	何春魁	吉林	教	本	八高	官4	1927.4	1931.3	1927-1930			①②
3	汪振華	湖北	教	大	北京高師	官5	1927.4	知能ノ研究	1927-1931		1929年に(北師大)	①②
4	詹道舜	湖北	英	大	武昌大英文科	官5	1927.4	十九世紀英國散文家ニツイテ	1927-1931		1929年から[十九世紀英國浪漫主義ノ研究]	①②
5	楊昭恕	湖北	哲	大	北京大	官3	1927.4	新カント派哲学	1927-1930			①②
6	林寄華	福建	教	聽	上海特志大		1927.4		1927			①
7	王寿勳	江西	教	聽	東京高師		1927.4		1927			①
8	張中鈞	湖北	教	聽	成城学校	官1	1927.4		1927			①
9	周慈好(女)	福建	教	聽	東京女子高師	補1	1927.4		1927			①
10	莊德俊	福建	教	聽	日大	補1	1927.4		1927			①
11	蘇清卓	湖南	哲	大	北京大	補1	1929.4	陳那学ニ就イテ	1929-1930			①②
12	莊尚嚴	河北	考古	聽	北京大	特1	1929.6		1929-1930			①
13	黄輝邦	江西	支那哲	本	八高	官3	1930.4	1933.3	1930-1932			①②
				大	東大文	官1選2	1933	儒教と仏教	1933-1935		1935年に(1935)入学	①②
14	漆宗棠	四川	言語	本	一高	補2	1930.4		1930-1932	1932		①②
			言語	本	一高	選3	1934	1937.3	1934-1936			①②

15	王榮佳 (作)	広東	社	大	北京大		1930.4	中華都市	1930-1931			①②
16	宋玉嘉	遼寧	支那哲	大	清華国学研究 院	官2	1930.4	支那哲学史	1930-1931			①②
17	魏重慶	浙江	社	大	北京師範大	補3	1930.4	社会学史	1930-1932			①②
18	楊希震	湖北	教	大	中央大	官2	1930.4	教育原理	1930-1931		1931年に (東京高師 在籍)	①②
19	周光達	湖北	独	大	北京大		1930.4	独逸文学史	1930-1931			①②
20	李白華			大	文			支那仏教ノ 社会的機能 ニ就イテ	1931			②
21	馬貴臣	広東		大	京大文	補1	1931.4	日本ノ絵画 主ニ其絵卷 芸術ニ就イ テ	1931-1932			①②
22	馬 毅			大	北京大文学部		1931	カントの哲 学	1931		[北平師範 大]	①②
23	孟憲章	湖北		大	北京師範大大 部		1931	西洋外交史	1931		同上	①②
24	夏 權	湖北		大	武昌中山大文 学部		1931	レエレーの 詩ニ就イテ	1931		1931年に (東京高師 在籍) [国 立武昌大]	①②
				大	武昌中山大	官3	1931	レエレーの 詩ニ就イテ	1933-1935		1935年に (1935)入学	①②
25	張景漢	河南		大	北京大文学部		1931	東亜民族史	1931			①②
26	張舒義	山東		大	北平師範大	官1選2	1933	教育行政	1933-1935			①②
27	陳伯歐	福建		大	北平師範大		1934	文学理論及 明治大正文 学	1934-1936			①②
28	孔 芥	広東		大	暨南大		1934	中国詩詞之 演變与音楽 的關係	1934-1935			①②
29	李佑辰	江蘇		大	中央大	選2	1934	社会調査	1934-1936			①②
30	劉荆蔭	福建		大	暨南大		1934	教育制度ノ 研究	1934-1935			①②
31	羅倬漢	広東		大	北京大	選3	1934	古代文明ノ 起源考	1934-1937			①②
32	喬冠華	江蘇		大	清華大		1934	カントノ純 粹理性批判	1934			①②
33	陶 音	安徽		大	清華大		1934	日支交渉史	1934-1936			①②
34	王力行	河北		大	北京大		1934	教育行政	1934			①②
35	王怡熙 (然)	山東		大	北平師範大		1934	史学研究法	1934-1935			①②
36	武 傑	山西		大	北平師範大		1934	教育史	1934-1935			①②
37	楊漢輝	湖南		大	広東大	選2	1934	農村社会学	1934-1936			①②
38	余錫嘏 (嘏)	四川		大	北京大	特1選1	1934	西洋哲学史	1934-1936			①②

39	張 皜	湖北		大	北平大	選 1	1934	先秦哲学史	1934-1935		1934 年に (北京大)	①②
40	張陳郷	河北		大	北平師範大	官 2	1934	社会教育	1934-1935			①②
41	張公暉 (輝)	江西		大	北京大	選 2	1934	支那戦国時代ノ思想史ノ研究	1934-1936		1935 年に (北平大)	①②
42	顔毓衡	吉林 「満」		大	清華大		1934	ロレンス・スタンノ研究	1934			①②
43	陳保安	陝西			明治大		1934		1934-1935		(文学部新聞研究室)	①
44	余朗屏 (屏)	広東	哲	本	水戸高	選 2	1935	1938. 3	1935-1937			①②
45	蔡光篁	広東		大	中山大		1935	社会思想史的研究	1935-1937		1937 年に 「農村社会学」, 1935 年に(特選) と誤植*2	①②
46	常任俠	安徽		大	中央大		1935	宋大曲金院本与元劇演進ノ歷程	1935-1936			①②
47	韓映坡	江蘇		大	北平師範大		1935	社会教育学	1935-1937		1935 年に (特選)と誤 植*2	①②
48	蔣益明	湖南		大	北平師範大		1935	最近歐州三十年來政治ノ改進	1935-1936		同上	①②
49	解樹椿	山東		大	北平師範大	官 1	1935	支那近代史 (特ニ鴉片 戦争以後ニ 就イテ)	1935-1937		同上	①②
50	梁嘉彬	広東		大	清華大		1935	近代支那外交史	1935-1937		同上	①②
51	廖鸞揚 (楊)	広東		大	中山大		1935	明治以後ノ 日本ノ教育	1935-1936		同上	①②
52	林一鵬	福建		大	広東大		1935	公民教育	1935-1936		同上	①②
53	劉 渠	広東		大	中央大		1935	人口問題	1935-1937		同上	①②
54	饒祝華	広東		大	暨南大		1935	近代教育史	1935-1937		同上, 1936 年に [近世 教育史]	①②
55	阮鏡清	広東		大	中山大		1935	学習心理学	1935-1936		1935 年に (特選)と誤 植*2	①②
56	石兆棠	広西		大	中山大	貸費 1	1935	独逸現代哲学	1935-1938	1938	同上	①②
57	蘇維霖	福建		大	北京大		1935	児童心理	1935-1936		同上	①②
58	王信忠	江蘇		大	清華大	公 1	1935	中日關係史	1935-1936			①②
59	謝海若	安徽		大	米国コロ ンビヤ大		1935	世界最近世 史	1935-1936		1935 年に (特選)と誤 植*2	①②

60	楊鴻烈	雲南		大	北平師範大	特 2	1935	支那法制史ノ研究	1935-1936			①②
61	尤炳圻	江蘇		大	清華大		1935	十八九世紀英国ノ小説	1935-1937		1935年に(特選)と誤植*2.1937年に[明治大正ノ日本文学]	①②
62	趙玉潤	山東		大	北平師範大	官 2	1935	中国文学史	1935-1938	1938		①②
63	周夢麟	湖南		大	中央大		1935	デイルタイ派ノ教育学説	1935-1937		1935年に(特選)と誤植*2	①②
64	鄒 文	奉天「満」	西洋史	本	一高特設	選 3	1936	1939. 3	1936-1938			①②
				大	東大文				英国近代史	1939-1940		
65	陳良盛	広東		大	暨南大		1936	孟子研究	1936-1938	1938	1937年に[墨子研究]	①②
66	陳志潼	山東		大	北平師範大	官 1	1936	実験教育学	1936-1938	1938		①②
67	鄧 荃	湖南		大	北平師範大		1936	清代文学ノ展開	1936-1938	1938	1936年に(北平大)	①②
68	馮炳奎	広東		大	北京大		1936	孔孟ノ研究	1936-1938	1938		①②
69	馮健文	広東		大	北平師範大		1936	元史ノ研究	1936-1937		1936年に(北平大)	①②
70	馮肇元	山東		大	北平師範大		1936	中日交通史	1936-1937		同上	①②
71	葛 梁	江蘇		大	中央大		1936	西洋教育史特ニ現代	1936-1937			①②
72	郭履莖	山東		大	北平師範大		1936	教育心理	1936-1938	1938		①②
73	黄明慧	広東		大	暨南大		1936	教育哲学	1936-1937			①②
74	黄現璠	広西		大	北平師範大	貸費 1	1936	中国社会風俗史	1936-1938	1938	1936年に(北平大)	①②
75	黄毓甲	山西		大	北平師範大		1936	支那ト朝鮮トノ文化関係ノ史的検討	1936-1938	1938	同上	①②
76	黄植文	広東		大	中山大		1936	農村社会問題	1936-1938	1938		①②
77	姜季辛	湖北		大	武昌師範大		1936	日本歴史研究	1936-1937			①②
78	鄭炯燊	広東		大	中山大		1936	都市人口問題	1936-1937			①②
79	李龍啓	広東		大	暨南大		1936	世界大戦後ノ歐州(特ニ獨逸ヲ中心トシテ)	1936-1938	1938		①②
80	梁繩禕(緯)	河北		大	北平師範大	官 1	1936	日支文学之相互の影響	1936-1938	1938	1937年に(北平大)	①②
81	林振環	広東		大	北京大		1936	周秦思想ノ研究	1936-1938	1938		①②
82	盧光彬	河北		大	北平師範大		1936	教育行政特ニ視学制度	1936-1938	1938		①②

83	英国萬	広西		大	北平師範大		1936	社会調査	1936-1938	1938			①②
84	瞿起模	湖南		大	北京大		1936	近六十年来 国際関係ノ 転変	1936-1937				①②
85	孫毓棠	江蘇		大	清華大		1936	漢代史	1936-1937				①②
86	陶繼安	浙江		大	北平師範大		1936	日本文学ト 支那文学ト ノ相互影響	1936-1937			1937年に (北平大)	①②
87	汪大捷	安徽		大	北平師範大		1936	明治維新史 (特ニ教育 的ニ明治大 帝ノ御鴻業 及ビ其ノ功 臣)	1936-1938	1938			①②
88	王冠英	山東		大	北京大		1936	農村教育	1936-1937				①②
89	王錦第 (弟)	河北		大	北平大		1936	カント哲学 及ヘーゲル 哲学	1936-1937			1937年に (北平大) [北平師範 大]	①②
90	吳報錦	安徽		大	暨南大		1936	満洲近代政 治史	1936-1937				①②
91	吳長生	湖南		大	中央大		1936	実験心理学	1936-1937				①②
92	蕭自強	安徽		大	復旦大		1936	日本近代ノ 教育史	1936-1938	1938			①②
93	燕文若 (君)	湖北		大	中央大		1936	日本教育史	1936-1937				①②
94	楊崇勳	浙江		大	中央大		1936	プラトン (Plato) ト 現代思想	1936-1937			1937年に [プラトン ト現代思 潮]	①②
95	姚 鑒	貴州		大	清華大		1936	考古学	1936-1938	1938			①②
96	殷孟倫	四川		大	中央大		1936	詩ノ研究	1936-1938	1938			①②
97	俞 浩	江蘇		大	中央大		1936	小学教育	1936-1938	1938			①②
98	張桂芳	河北		大	北京大		1936	支那上代哲 学史	1936-1937			1937年に (北平大)	①②
99	孫成寶	閩東州 「満」	教	本	一高特設	官3	1937	1940. 3	1937-1939				①②
100	莫東寅	奉天 「満」	東洋史	本	一高特設	官3	1937	1940. 3	1937-1939				①②
				大	一高		1940	宋代經濟史	1940-1941			②③	
101	黄燕謀	広東		大	中山大		1937	ヘーゲル哲 学	1937				①②
102	江之源	江蘇		大	北平大		1937	近代フラン ス社会学史 研究	1937-1938	1938			①②
103	李 中	湖南		大	北平師範大	官1	1937	鴉片戦争後 ノ中国	1937-1938	1938			①②
104	樓公凱	浙江		大	中央大		1937	明治維新史	1937-1938	1938			①②
105	歐陽樊	江西		大	武昌中山大		1937	日本近代史 研究	1937-1938	1938			①②

106	斉国樞	河北		大	北京大		1937	日本現代史	1937-1938	1938		①②
107	蘇杰民	広東		大	暨南大		1937	近代日華交渉史	1937-1938	1938		①②
108	王慶被	湖南		大	北平師範大		1937	明治大正時代ノ小説ノ研究	1937-1938	1938		①②
109	楊烈	四川		大	四川大		1937	ブイクトリア朝英文学	1937-1938	1938		①②
110	楊向奎	河北		大	北京大		1937	唐代経済史	1937-1938	1938		①②
111	章柱 (桂)	江蘇		大	暨南大		1937	清代詞学ノ分析的研究	1937-1938	1938		①②
112	張国馨	広東		大	中山大		1937	明治維新後日本ノ教育政策	1937-1938	1938	1937年に (中央大)	①②
113	鄭開啓	江蘇		大	中央大		1937	日本ニ於ケル近代教育史	1937-1938	1938		①②
114	朱濤	四川		大	暨南大		1937	ファツシス主義等ニ於ケル教育思想ノ比較研究	1937-1938	1938		①②
115	朱智賢	江蘇		大	中央大		1937	近代小学教育ノ發展ト其ノ動向	1937-1938	1938		①②

\*2 潘吉玲 「「特選留学生」学費補給制度（1920-1940年）に関する研究」（『次世代論集』vo1.3, 2018年）を参照。

理学部 16名

1	鄭愈	浙江		大	九大工	補2	1928.4		1928-1929			①②
2	蘇孟守 (宋)	四川	地質	本	八高	補2	1929.4	1932.3	1929-1931			①②
				大	東大理	選2	1932.4	地史学	1932-1933	1933		①②
3	李岐山	河北		大	東大工	官2特1	1932.4	鉱床地質学	1932-1934		工学部から	①②
4	石延漢	浙江・ 安徽	物	本	一高	選2官1	1934	1937.3	1934-1936			①②
5	江濤声	浙江		聽	中央大		1934		1934			①
6	李国平	広東		大	中山大理学部 数学科	公1	1935	整関数論	1935-1936			①②
7	廖華揚 (楊)	広東		大	中山大理学部 物理学科	公1官1		量子論	1935-1937			①②
8	李秋谷	広東		大	広東高等師範		1936	分析化学	1936-1937		1936年に (1935)入学	①②
9	陳爾康	四川		聽	四川大		1936		1936			①
10	廖振中	江西		聽	中国学院		1936		1936			①
11	孫錫洪	浙江		聽	北京大		1936		1936			①
12	楊春洲	雲南		聽	北平師範大		1936		1936			①
13	鄭儀新 (女)	広東		聽	中山大	公1	1936		1936			①
14	梁溥	広東		大	中山大		1937	景観地理学	1937-1938			①②
15	張祖桐	山東		大	燕京大		1937	函数論	1937-1938	1938		①②



16	李菱鏡	河北		聽	広島高師		1937		1937			①
農学部 144名												
1	許調履	江西	農	本	二高	補1官1	1927	1930.3	1927-1929			①②
2	余炳炆	四川	農經	本	六高	補3官1	1927		1927-1930			①②
3	甘海 (梅)權	四川	農	実科 聽	省江北治平中 学	補1	1927.4		1927-1929		1927年に (4月7日 休学許可)	①
4	李祖祖 (昶)	浙江	農	実科 聽	上海南洋中学	補1	1927.4		1927-1929		1927年に (千駄谷394)	①
5	羅炳焯	四川	農	実科 聽	成都高師附中	補1	1927.4		1927-1929		1927年に (下渋谷205 小島方)	①
6	沈 性	浙江	農	実科 聽	上海大同大予 科肄業一年	補1	1927.4		1927-1930		1927年に (本郷区追 分町31中 華学舎)	①
				介	東大農実		1931.5		1931-1932	1933	1933年に (帰国)	①
7	楊(揚) 金書	広東	農	実科 聽	省潮州中	補1	1927.4		1927-1928		1927年に (牛込原町 成城学校寄 宿舎)	①
8	鄭達生	江西	農	実科 聽	江西省立第一 師範学校	補3	1927.4		1927-1930		1927年に (府下高田 町雑司ヶ谷 442居之安)	①
9	朱鳳美	江蘇		研	江蘇省立第一 農業学校	特1	1927.7		1927-1930		1927-1929 年に研究生 未収録	①
10	王 劍	奉天・ 遼寧 「満」	農	本	一高	補1	1928.4	1932.3	1928-1931			①②
11	蔡康瑛 (濱)	浙江	農	実科 聽	江蘇省立第一 農学校		1928.4		1928-1930			①
				介	東大農実		1931.4		1931-1935	1933-1934	1933-1934 年に(帰国)	①
12	陳鼎新	広東・ 浙江	農	実科 聽	広東省立琼崖 第六師範中学 部		1928.4		1928-1930			①
				介	東大農実	補1選2	1931.5		1931-1934		①	
13	楊開渠	浙江	農	実科 聽	浙江省立甲種 工業学校		1928.4		1928-1930			①
				介	東大農実		1931.4		1931-1935	1933-1935	1933-1934 年に(帰国)、 1935年に (帰国中)	①
14	呂登甲	湖北	林	実科 聽			1928.4		1928			①

15	金 焯	浙江		介	北海道大水産 専門部	選 1	1928. 8		<u>1928-1935</u>		1927-1929 年に介補未 収録, 1931 年に(1931. 4) 入学	①
16	莊開永	福建	農	本	一高	補 1 選 1	1929. 4	1932. 6	1929-1932			①②
17	王寅章	浙江	農芸化	本	一高	選 1 補 3	1929. 4	1933. 3	1929-1932			①②
				大	東大農	補 2	1933. 4	發酵学	1933-1935			①②
				副	東大		1937		1937-1938	1938		①
18	劉 達	湖南	農	実科 聴	湖南私立嶽雲 中学校		1929. 4		1929-1931			①
19	史鳳林 (林)	黒龍江	林	実科 聴	天津南開中学 校	補 1	1929. 4		1929-1931			①
20	李常雨	河北	農	実科 聴	河北省育徳中 学		1930. 4		1930-1932			①
21	莫先進 (英)	湖南	農	実科 聴	湖南省兌澤中 学校	補 1	1930. 4		1930-1932			①
				介	東大農実	選 2	1933. 6		<u>1933-1940</u>	1938~	1936-1937 年と 1939 年に介補未 収録	①
22	曹樹道	陝西	林	実科 聴	四川成都大成 中学校	官 1	1930. 4		1930-1932			①
23	汪兆羆	江西	林	実科 聴	江西省立臨川 中学校		1930. 4		1930-1932			①
24	王德綿	黒龍江	林	実科 聴	東北交通大予 科一年		1930. 4		1930-1932		中華→「満」	①
25	臧広田	遼寧	獣医	実科 聴	満洲公主嶺農 業学校	官 1 満鉄 1	1930. 4		1930-1932		中華→「満」	①
26	張文新	遼寧・ 奉天	獣医	実科 聴	金洲農業学 堂	補 1	1930. 4		1930-1932		中華→「満」	①
27	潘元耿	浙江		副	北京大化学系	補 1	1930. 4		1930-1931			①
28	藍 瑾	四川		介	北京農業大		1930. 4		1930-1931			①
29	周啓亮	湖南	農	聴	北京参謀本部 航空専		1931. 4		1931			①
30	韓秉鐸	山西	農経	聴	北京大法学院 経済系		1931. 4		1931			①
31	楊(揚) 熊權	遼寧・ 奉天	獣医	実科 聴	満洲公主嶺農 業学校	選 1 補 1	1931. 4		1931-1933		中華→「満」	①
32	祖維顯	河北		副	河北大農学科	選 1	1931. 6		1932-1933			①
				大	河北大農学部 農学科	官 1 選 2	1934. 4	育種学	1934-1936			①②
				副	河北大 (農本科)		1931. 6			<u>1937-1940</u>	1938~	1936-1937 年に副手未 収録

33	張清鑑	江西		介	農学部林学科 選科?・中央 大農学院		1932. 1		1932-1935	1935	「一覧」の 「選科」に は記録なし	①
				介	・江西省立農 専		1932		1936-1938	1938	1936-1937 年に介補未 収録	①
34	吳 涵	湖北	農	実科 聴	武昌楚材高級 中学校		1932. 4		1932-1934			①
35	閻承章	閩東州 「滿」	林	実科 聴	金州農業学堂		1932. 4		1932			①
36	周拾祿	浙江		介	東北大農科	官 1	1932. 5		1932-1933			①
				大	東南大農学部 農芸化学科	官 2	1934. 4	育種学	1934-1935	1935		①②
37	袁 鈍 (京)	陝西		介	西北大政治経 済系		1932. 5		1932-1933		1932年に (袁鈍京)	①
				大	西北大政治経 済科	公 1	1934. 4	農業経済学	1934-1935	1935	1935年に (病氣帰国 中)	①②
38	李景清	河南		大	清華大法学院 経済系	選 1	1933. 4	農業経済学	1933-1935			①②
39	石 樺	江蘇		大	中央大農学院 農政科	選 2	1933. 4	農業経営学	1933-1935			①②
40	郝瑞新	閩東州・奉 天 「滿」	農	実科 聴	金州農業学堂	選 1	1933. 4		1933-1934			①
41	董承育	浙江		介	中央大農学院 水産科		1933. 4		1933-1935			①
42	陳朝玉	河南		大	北京農業大本 科		1933. 7	栄養化学	1933-1935			①②
43	朱学曹 (曾)	浙江		介	浙江大農学院 農芸学系				1933			①
				大	浙江大農学部 農芸化学科	公 1 官 1	1934. 4	植物病理学 特ニ稲作ノ 病害	1934-1935		1934年に (公費一部 自費)	①②
44	路調鼎	安徽		介	明大専攻科	補 1			1933			①
45	孫世英	河北		大	北平大法学院 政治学科		1934. 4	農政学	1934		法学部にも 在籍	①②
46	李忠樞	河北		大	北平大法学部 政治学科	選 2	1934. 4	農政学	1934-1936			①②
47	孫珍田	山東		大	上海中国公学 大部経済学科		1934. 4	農業経済学	1934-1935			①②
48	王嘉謨	四川		大	北京大経済学 部		1934. 4	農業政策	1934-1935			①②
49	王金銘	河北		大	清華大法学部 経済学科	選 2	1934. 4	農業政策	1934-1936			①②
50	王寧華	山東		大	北平大法学部 政治学科		1934. 4	農政学	1934-1935			①②
51	熊傳寶	河北・ 湖北		大	北平大法学部 政治学科		1934. 4	農政学	1934-1936		1936年に (北京大)	①②

52	楊(揚)爾璜	陝西		大	北京大經濟学部	官 2	1934. 4	農業經濟学	1934-1941	1938~		①②
53	于(干)鳴冬	山東		大	北平大法学部 經濟学科	官 2	1934. 4	農業經濟学	1934-1936			①②
54	周鳳岐	山東		大	清華大法学部 政治学科	官 1	1934. 4	農政学	1934-1936			①②
55	施肇和	哈爾濱・吉林 「滿」		大	北平民国大經濟学部		1934. 4	農業政策	1934-1935			①②
56	謝康藻	江西	林	選	農業専林学本科	選 1	1934. 4		1934-1935			①②
57	王 崑	河北	水産	聽	河北省立水産専	官 1	1934. 4		1934			①
			水産	選	河北省立水産専	選 1	1935		1935-1941	1938~		①②
58	陳毓宗	浙江	農	実科聽	蘇州農業学校		1934. 4		1934			①
59	曲傳和	奉天 「滿」	農	実科聽	旅順師範学堂		1934. 4		1934			①
60	王玉成	奉天 「滿」	獣医	実科聽	金州農業学堂		1934. 4		1934			①
61	咸增榮	奉天 「滿」	獣医	実科聽	金州農業学堂		1934. 4		1934			①
62	周長信	浙江		介	浙江大農学院	官 1	1934. 2		1934-1935		1934 年に (自費政府補助)	①
63	趙鴻基	江蘇		介	中央大	公 1	1934. 3		1934-1938	1938	1935 年に (浙江大農学院), 1936-1937 年に介補未収録	①
64	馬開化	浙江		介	浙江大農学院		1934. 5		1934			①
65	張百川	山東		介	北京大經濟系		1934. 5		1934-1935			①
66	孟昭杜	河南		介	河南大經濟学部		1934		1934-1935			①
67	金長城	奉天 「滿」	農土木	本	八高	官 3	1935		1935-1938	1938	1935 年に (自費)	①②
68	陳家芷	河北		大	北京大經濟学科		1935	農政学	1935-1936			①②
69	李述中	福建		大	中山大法学院		1935	農業經濟	1935-1936			①②
70	劉世超	湖南		大	中央大法学院	官 2	1935	農業經營	1935-1941	1938~		①②
71	盧冠羣	広東		大	暨南大法学院		1935	農業經濟	1935-1941	1938~		①②
72	魯昌文	湖北		大	北京大經濟系	官 1	1935	農業土地政策	1935-1936			①②
73	羅清澤	山東		大	北平大生物系	官 2	1935	植物病理学	1935-1937			①②
74	邵鴻書	浙江		大	中山大經濟学科		1935	農業經濟	1935-1941	1938~		①②

75	唐堯衢	四川		大	北平大工学院		1935	農芸化学系 ノ栄養化学	1935-1936				①②	
76	吳春科	江蘇		大	中央大法学部		1935	農業經濟	1935-1936				①②	
77	吳建章	江蘇		大	東南大農科		1935	稻棉ノ害虫	1935-1936				①②	
78	葉守濟 (清)	安徽		大	中央大法学部		1935	農業經濟学	1935-1941	1938~			①②	
79	尹良瑩	安徽		大	中央大農学部		1935	蚕体病理	1935-1936				①②	
80	章振乾	福建		大	中山大法学院		1935	農業經濟	1935-1941	1938~			①②	
81	張効良	安徽		大	北平大法学院	官 1	1935	農業政策	1935-1941	1938~	1938 年に (北京大)		①②	
82	張硯田	河北		大	北京大經濟学科		1935	農業政策	1935-1936				①②	
83	傅俊儀	湖北		大	暨南大法学部		1935	農業經濟	1936-1941	1938~			①②	
84	王湘明	広東		大	暨南大		1935	農業經濟	1936-1937				①②	
85	管相桓	四川		大	中央大農学院		1935	育種学	1936-1941	1938~			①②	
86	張文曦	四川		大	北平大農学院	官 2	1935	食用作物学	1935-1941	1938~			①②	
87	張憲武	吉林 「滿」		大	燕京大理学院	官 1	1935	肥料	1935-1937				①②	
88	凌健雄	湖南	林	介	北平民国大經濟学科				1935				①	
				選				1936		1936				①②
				大				1937		1937-1941	1938~	1937 年に (北平大)		①②
89	林聚光	江蘇		介	南通大農学院		1935		1935				①	
90	龍儀 (女)	江西		介	北平大		1935		1935				①	
				介	北平大		1935		1935-1938	1938	1936-1937 年に介補未 収録		①	
91	邵凌士	江西		介	中国公学大理 科生物系		1935		1935				①	
92	王炬之	江蘇		介	南通大農学院		1935		1935				①	
93	楊国棟	河南		介	金陵大農業專 修科		1935		1935				①	
94	鄭審因 (女)	浙江		介	東京女高師		1935		1935				①	
95	孔雪雄	浙江		介	上海中山学院		1935		1935-1938	1938	1936-1937 年に介補未 収録		①	
96	羅賢	広東	農土木	本	一高特設	選 2	1936		1936-1938	1938			①②	
97	白寶棟	奉天 「滿」	林	本	八高	選 2	1936	1939. 3	1936-1938				①②	
98	畢相輝	安徽		大	清華大研究院		1936	近代農業經 済史農業經 済ニ関スル 一般のナ理 論	1936-1941	1938~			①②	

99	傅思傑	廣東		大	中山大農學院		1936	林政學	1936-1941	1938～	1936年に (1935)入学 1937年に (中央大)	①②
100	金肇源	浙江		大	中央大農學院		1936	作物	1936-1941	1938～	1936年に (1935)入学	①②
101	李 蒼	廣東・ 湖北		大	暨南大法學部		1936	農業經濟	1936-1941	1938～	同上	①②
102	李彭周	廣東		大	中山大工學院		1936	農業水利學	1936-1941	1938～	同上	①②
103	魯昭禕	安徽		大	中央大農學院		1936	森林化學	1936-1941	1938～	同上	①②
104	曲澤洲	山東		大	北平大農學院		1936	果樹園芸學	1936-1941	1938～	同上	①②
105	萬茲先	湖北		大	中央大農學院		1936	作物	1936-1941	1938～		①②
106	王承平	河北		大	北平大農學院		1936	庭園設計	1936-1941	1938～	1936年に (1935)入学	①②
107	夏道成	江蘇		大	暨南大法學部		1936	農業經濟	1936-1941	1938～		①②
108	楊(揚) 文衡	山東		大	山東大理學院		1936	果樹園芸學	1936-1941	1938～		①②
109	章恢志	浙江		大	浙江大農學院		1936	果樹園芸學	1936-1941	1938～		①②
110	張迦陵	廣東		大	清華大研究院		1936	農業政策	1936-1941	1938～		①②
111	周文彬	河北		大	北平大		1936	造園學花卉 園芸學	1936-1938	1938		①②
112	周自睿	山東		大	北平大法商學 院		1936	農業經濟學	1936-1941	1938～		①②
113	王兆澄		農	大				中華食品 ニ関スル化 學的的研究	1936-1937			②
114	魏世有	綏遠	獸醫	選	北平獸醫專門		1936		1936			①②
				大	北平獸醫專		1937	家畜病理學 並ニ細菌學	1937-1941	1938～		①②
115	曾慶人	江西	農	選	江西省農學院 附設農芸專		1936		1936-1941	1938～		①②
116	郭 衍 (行)賓	廣東	林	選	中山大農學院 農業專門部		1936		1936-1941	1938～		①②
117	胡 瑜 (女)	浙江		介	浙江大		1936		1936-1938	1938	1936-1937 年に介補未 収録	①
118	羅克典	廣東		介	上海新民主		1936		1936-1938	1938	同上	①
119	羅澎鑑	廣東		介	廣東大		1936		1936-1938	1938	同上	①
120	俞筠鐳 (女)	江蘇		介	江蘇省立女蚕 校		1936		1936-1938	1938	同上	①
121	蔡耀祺	江蘇	農芸化	本	一高特設		1937		1937-1941	1938～		①②
122	班 沛	綏遠		大	北平大農學院		1937	畜產學	1937-1941	1938～		①②
123	曹吳柏	浙江		大	中央大農學院		1937	桑樹細胞遺 伝ト育種	1937-1941	1938～	1937年に (中山大)	①②
124	段佑雲	江蘇		大	中央大農學院		1937	育種學蚕種 學蚕體整理 及解剖學	1937-1941	1938～		①②

125	方兆鼎 (輝)	浙江		大	中央大農学院		1937	農業金融	1937-1941	1938～		①②
126	高沾志	広東		大	中山大農学院		1937	作物	1937-1941	1938～		①②
127	顧辛漢	江蘇・ 浙江		大	浙江大		1937	産業組合	1937-1941	1938～		①②
128	黄子康	広東・ 山東		大	中山大法学院		1937	農業経済	1937-1941	1938～		①②
129	金貴澁	江蘇		大	中央大農学院		1937	森林化学	1937-1941	1938～		①②
130	林玄森	広東		大	大夏大法学院		1937	農業経済学	1937-1941	1938～		①②
131	孫凝澄	浙江		大	北平大農学院		1937	食用作物	1937-1941	1938～		①②
132	王慶延	山東		大	北平大農学院		1937	肥料吸収率 二就イテ	1937-1941	1938～		①②
133	呉榮垣	福建		大	中央大農学院		1937	家蚕育種卜 抗病	1937-1941	1938～		①②
134	呉汝勳	浙江		大	復旦大文学部		1937	信用組合卜 農業倉庫	1937-1941	1938～		①②
135	刑潤雨	山西		大	北平大法商学院		1937	農業経済学	1937-1941	1938～		①②
136	張維漢	湖北		大	北平大農学院		1937	家畜生理	1937-1941	1938～		①②
137	凌健雄			大	民国大			林政学	1937-1941	1938～		②
138	顧篤煌	江蘇	農	選	千葉高等園芸 学校		1937		1937-1941	1938～		①②
139	凌化育	広東	農	選	広東大農業專 門部	官 1	1937		1937-1941	1940～		①②
140	周汝沆	浙江	農	選	北京農業専門		1937		1937-1941	1938～		①②
141	黄鳴盛	江西	林	選	江西省立農業 專科学学校		1937		1937-1941	1938～		①②
142	高鳳拳	甘肅	獣医	選	北平大農学院		1937		1938-1941	1938～		①②
143	尹叙五	山東	水産	選	山東大理学院		1937		1937-1941	1938～		①②
144	張寶樹	河北		聽	河北水産専門	官 1	1937		1937			①
経済学部 18名												
1	梁士拭	広西		聽			1927. 4		1928			①②
2	林葆驥	福建	商	本	五高	補 2	1928. 4	1931. 6	1928-1931		1930年に (八高)	①②
3	呉融春	奉天		大	北京大	補 1	1928. 4	財政学	1928-1929		1928-1929 年に [大] ; 1928年に (聴講生)	①②
4	鄧裕鎔	湖南	商	本	五高		1929. 4		1929			①②
5	廖体仁	湖北		大	京大経済	補 1	1929. 4		1929			①②
6	王維濤	安徽		大	国立武昌中山 大		1931. 4	経済思想史	1931		[中山大]	①②
7	邵毓麟	浙江		大	九大法文		1933	財政史	1933-1934		[九経], 1934年に [財政学]	①②
8	潘汝璠	広東		大	九大法文	官 2	1934	日本経済史	1934-1935		[九経]	①②
9	于(干) 百溪	雲南		大	京大経済	官 1 補 1	1934	財政学 (特ニ予算)	1934-1935			①②

10	胥国瑞	奉天 「満」		聽	奉天東北大		1934		1934-1935			①
11	范正桐	湖北		聽	北平大法学院				1935			①
12	王宗晋	奉天 「満」		聽	塩務專				1935			①
13	張為先	奉天 「満」		聽	英国エヂンバ ラ大		1935		1935-1936			①
14	馬季唐	雲南		大	京大経	選 1	1936	貨幣論 (但シ貨 幣制度)	1936			①②
15	江理中	安徽		聽	北平中国学院 法科		1937		1937		1940-1941 年に農学部 大学院	①
16	顧以偉	江蘇		聽	北平燕京大		1937		1937			①
17	李德榮	河北		聽	北平燕京大		1937		1937			①
18	王龍章	江蘇		聽	上海法学院		1937		1937			①

出典：以下の資料により作成。

①日華学会編『留日中華学生名簿』各年版，昭和 2-16（1927-1941）年。

②東京帝国大学『東京帝国大学一覽』・『東京帝国大学要覽』各年版，昭和 2-17（1927-1942）年。（国立国会図書館デジタルコレクション，<https://dl.ndl.go.jp/>（2024 年 5 月 1 日最終閲覧））。



# 东京帝国大学中国留学生数据解析

## ——以昭和初期（1927-1937 年）入学者为主要分析对象——

周一川

摘要：

1927-1937 年期间，在东京帝国大学学习中国留学生至少有 478 名，人数在各帝国大学中居首位。东京帝大的各学部独立性很强，招收留学生的基准也有很大的不同，但是所有的学部在此时期都招收了中国大学毕业的留学生是其相同之处。

20 世纪 30 年代中期的第三次留日高潮期间，很多留学生希望能够进入东京帝大学习。在这种情况下，东京帝大的多数学部采取积极的措施招收了为数众多大学院生和专攻生（医学部）。大学院生和专攻生占压倒多数是昭和初期东京帝大中国留学生的突出特征。

中国人的日本帝国大学留学和中国国内的高等教育发展相互影响，有着密不可分的关系。中国高等教育的发展和普及，让希望进入日本帝大学习的留学生掌握了坚实的专业知识。此外，众多希望进入帝大学习的留学生的存在，对东京帝大各学部的接受留学生的方针政策和入学制度改革，起到了促进作用。其中东京帝大大学院的门户开放和医学部的专攻生制度，为赴日留学的高学历的中国知识群体提供了再学习和进行更深入的专业研究的机会。

关键词：东京帝国大学；留日学生；「外国学生」；大学院门户开放；专攻生